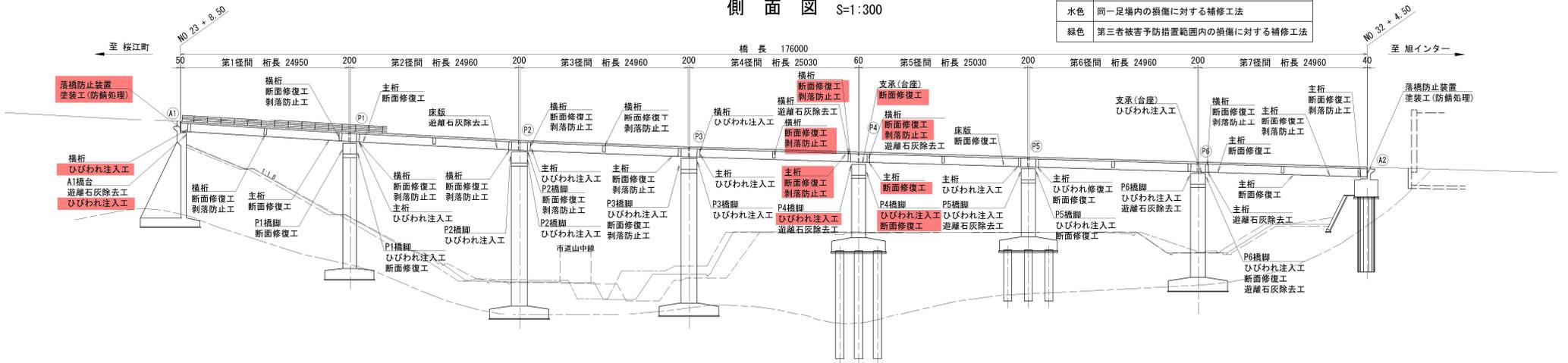


# 山中大橋 補修全体一般図

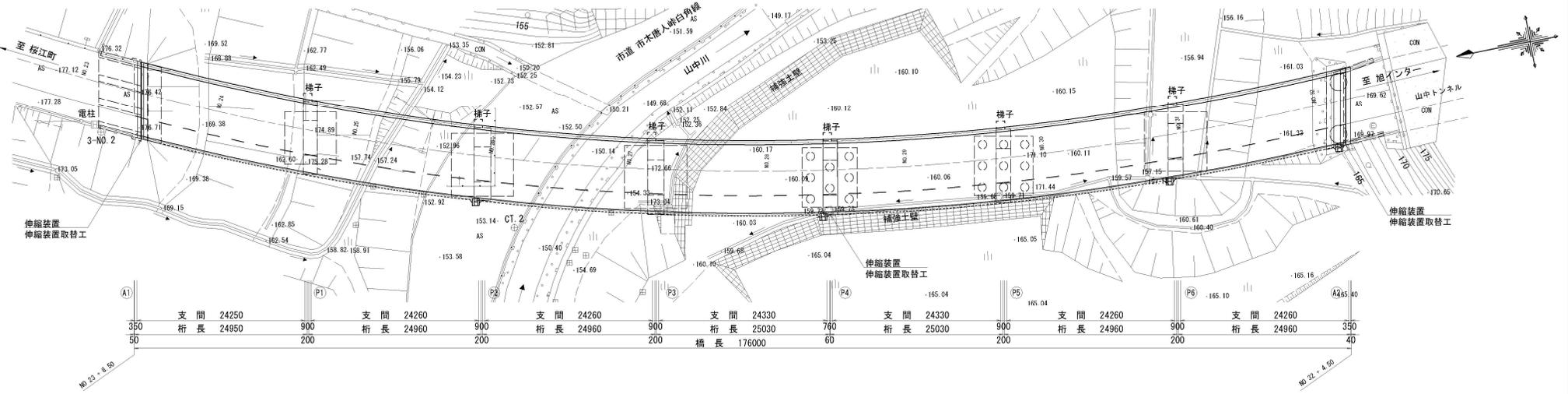
側面図 S=1:300

## 凡例

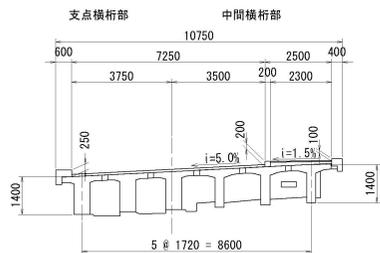
紫色	判定区分Ⅱの損傷に対する補修工法
水色	同一足場内の損傷に対する補修工法
緑色	第三者被害予防措置範囲内の損傷に対する補修工法



平面図 S=1:300



上部工断面図 S=1:100



## 補修一覧表

補修部位	損傷内容	補修工法	補修材料
床版	欠損	断面修復工	ポリマーセメントモルタル、左官工法
	遊離石灰	除去工	
	ひびわれ	ひびわれ注入工	エポキシ樹脂注入材2種
	鉄筋露出	断面修復工	ポリマーセメントモルタル、左官工法
主桁	PC梁部の上巻(定着部の露出)	断面修復工	ポリマーセメントモルタル、左官工法
	剥離	断面修復工	ポリマーセメントモルタル、左官工法
	剥離防止工	特殊ビニロクロス	
	ジャンカ	断面修復工	ポリマーセメントモルタル、左官工法
横桁	遊離石灰	除去工	
	ひびわれ	ひびわれ注入工	エポキシ樹脂注入材2種
	うき	断面修復工	ポリマーセメントモルタル、左官工法
	鉄筋露出	断面修復工	ポリマーセメントモルタル、左官工法
伸縮装置	欠損	断面修復工	ポリマーセメントモルタル、左官工法
	遊離石灰	除去工	
	ゴム・シール材の劣化	伸縮装置取替工	簡易鋼製ジョイント(簡型)
	うき(後打ちコンクリート)	伸縮装置取替工	簡易鋼製ジョイント(簡型)
落橋防止装置	漏水(PC部締付ナット・ねじ切り部)	伸縮装置取替工	簡易鋼製ジョイント(簡型)
	塗装工(防錆処理)	塗装工(防錆処理)	常温塗料メッキ塗布(3種ケレン相当)

補修部位	損傷内容	補修工法	補修材料
支承(台座)	ひびわれ	ひびわれ注入工	エポキシ樹脂注入材2種
	鉄筋露出	断面修復工	ポリマーセメントモルタル、左官工法
橋台	ひびわれ	ひびわれ注入工	エポキシ樹脂注入材2種
	遊離石灰	除去工	
橋脚	ひびわれ	ひびわれ注入工	エポキシ樹脂注入材2種
	うき	断面修復工	ポリマーセメントモルタル、左官工法
	剥離防止工	特殊ビニロクロス	
	剥離	断面修復工	ポリマーセメントモルタル、左官工法
欠陥	欠陥	断面修復工	ポリマーセメントモルタル、左官工法
	剥離防止工	特殊ビニロクロス	
	遊離石灰	除去工	
	伸縮装置	伸縮装置取替工	簡易鋼製ジョイント(簡型)
落橋防止装置	漏水(PC部締付ナット・ねじ切り部)	伸縮装置取替工	簡易鋼製ジョイント(簡型)
	塗装工(防錆処理)	塗装工(防錆処理)	常温塗料メッキ塗布(3種ケレン相当)

注記:

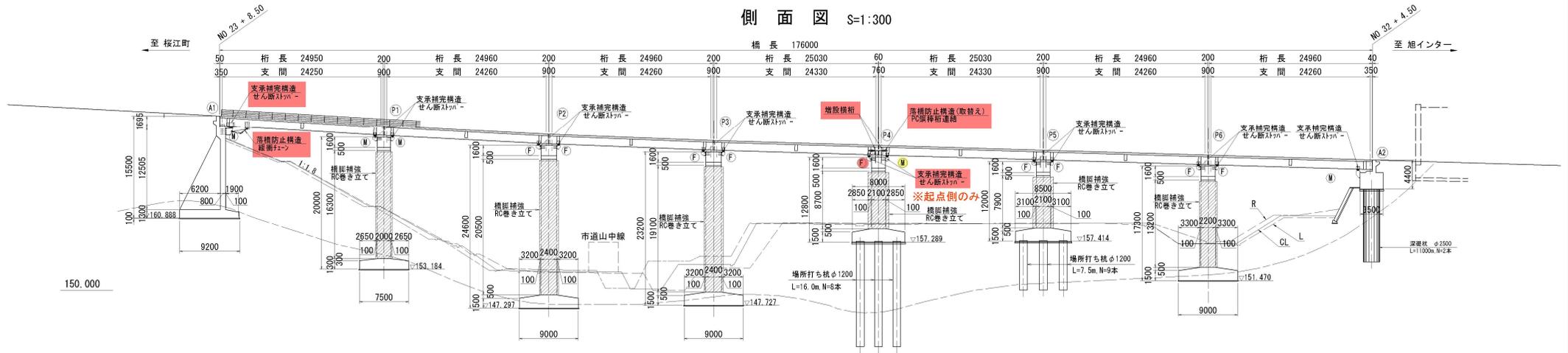
- 各補修図はR2年度橋梁点検調査に基づき作成したものである。
- 各損傷は点検調査を基に計上しているが、現地計測及び損傷状況の確認を行った後、補修工事に着手すること。

## 実施

年度	年
番号	補修全体一般図
工事名	(一) 桜江インター線(山中大橋) 防災交付金「橋梁補修」工事「その他」
通川港名	(一) 桜江旭インター線
施工箇所	江津市桜江町長谷 地内
図面名称	山中大橋 補修全体一般図
縮尺	図示
測量	会社及び責任者
設計	
業の内	

# 山中大橋 補強全体一般図(その1)

側面図 S=1:300



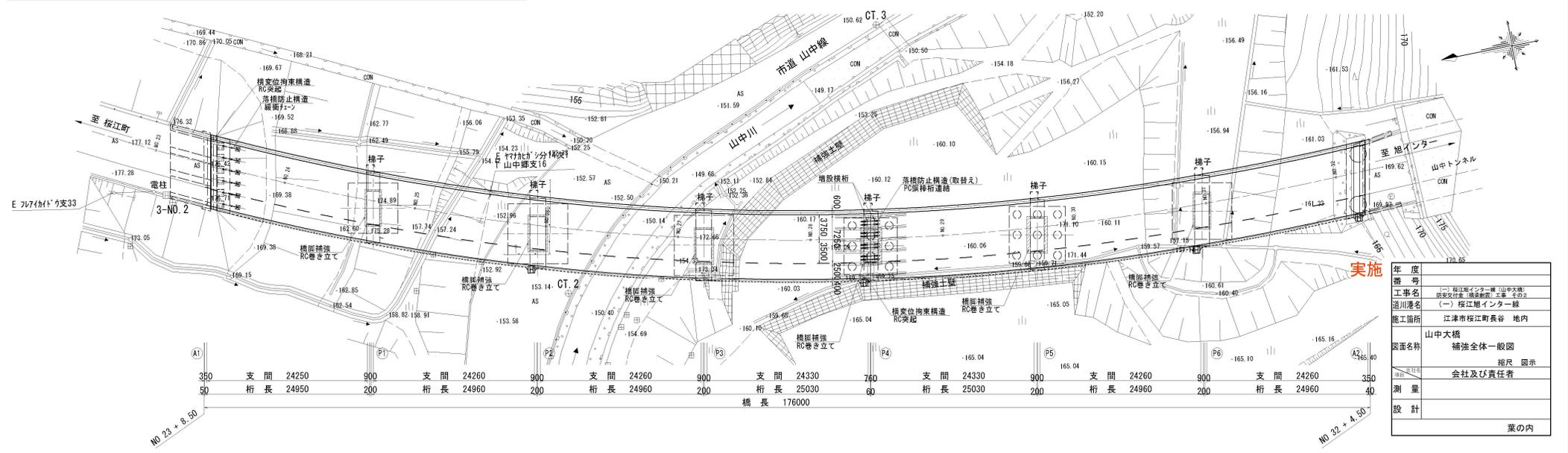
落橋防止システム構成一覧表

名称・方式	単位	箇所								合計
		A1	P1	P2	P3	P4	P5	P6	A2	
落橋防止構造	PC鋼棒桁連結	-	-	-	-	8	-	-	-	8
	緩衝フェーン	6	-	-	-	-	-	-	-	6
支承補完構造	せん断スリット	6	8	8	8	6	6	8	8	64
	増設横桁	-	-	-	-	8	-	-	-	8
横変位拘束構造	RC突起	1	-	-	-	1	-	-	-	2

耐震補強一覧表

耐震補強工法	A1	P1	P2	P3	P4	P5	P6	A2
橋脚補強 (RC巻き立て工法)	-	○	○	○	○	○	○	-

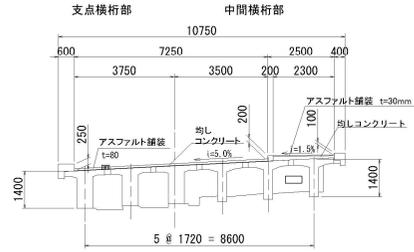
平面図 S=1:300



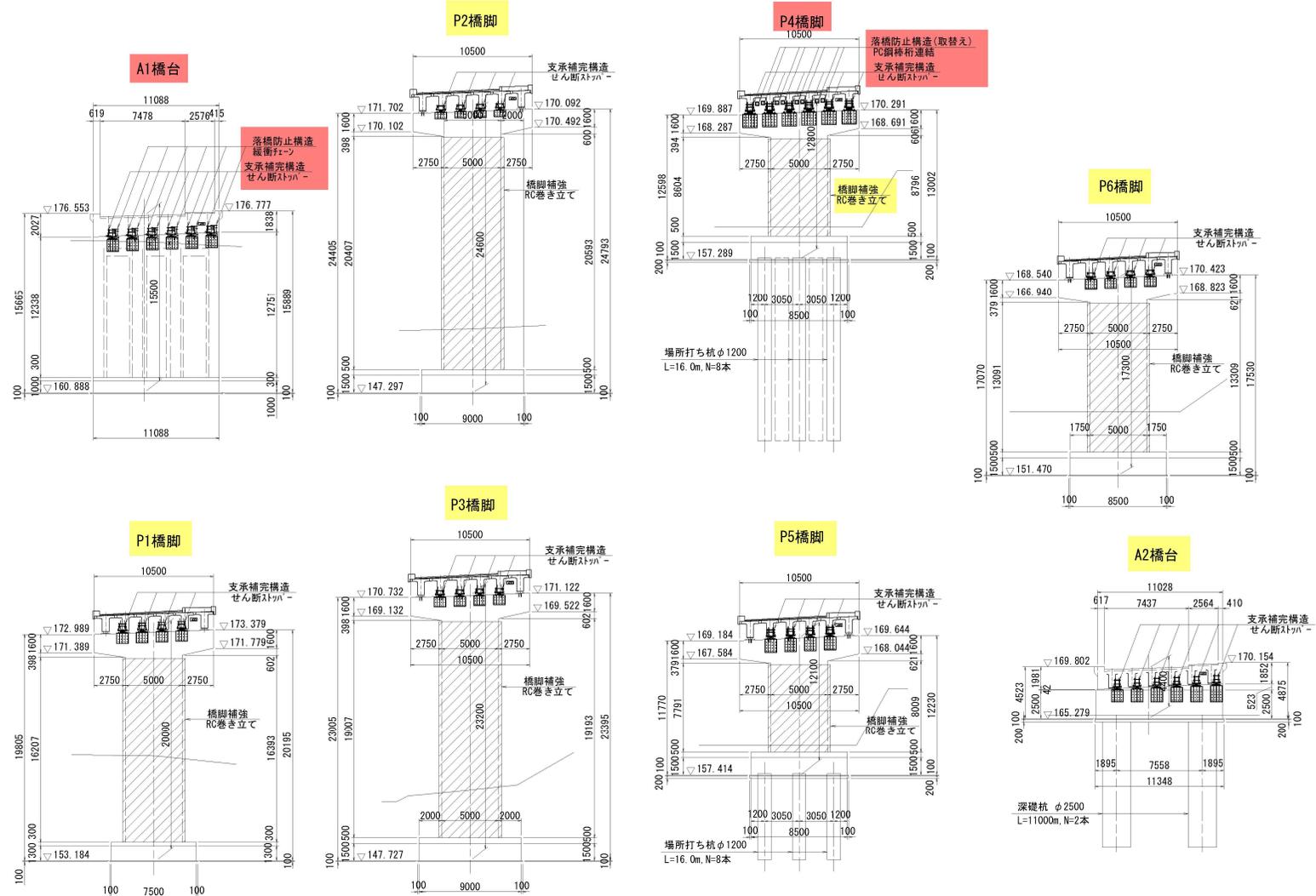
年度	2018年度
種別	補強工事
工事名	(一) 桜江町インター線(山中大橋) 耐震対策「橋脚補強」工事(その1)
通川港名	(一) 桜江町インター線
施工箇所	江津市桜江町長谷 地内
図面名称	山中大橋 補強全体一般図
縮尺	縮尺 図示
測定	会社及び責任者
設計	業の内

# 山中大橋 補強全体一般図(その2)

上部工断面図 S=1:100



下部工正面図 S=1:200



## 設計条件

橋名	山中大橋	
路線名	町道市木唐人峠白角線	
河川名	山中川	
道路規格	第3種 第3級	
橋種	道路橋	
橋格	B活荷重橋	
橋長	176.000m	
支間長	24.25 + 24.26 + 24.26 + 24.33 + 24.35 + 24.26 + 24.26	
幅員	有効幅員	車道部 7.250m 歩道部 2.500m
	全幅	10.750m
設計速度	60 km/h	
横断勾配	5.0% ~ 1.5%	
縦断勾配	6.0 ~ 2.907%	
斜角	A1: 75° 50' 00", A2: 77° 07' 41"	
設計荷重	B活荷重	
雪荷重	100 kg/m	
添架荷重	中電 φ150mm × 2条, φ75mm × 1条	
設計震度	A1: kh=0.14, P1 ~ A2: kh=0.17	
床版割増	割増無し (大型車両の交通量: 500台/日未満)	
型式	上部工	PC (4径間 + 3径間) 連続ポストンション1桁
	A1橋台 (左岸)	控壁式
	A2橋台 (右岸)	逆丁式
	橋脚	張出し式
基礎工	A1, P1, P2, P3, P6: 直接基礎 P4, P5: 場所打ち杭 A2: 深礎杭	
支承	レベル1: 固定可動支承、レベル2: 固定可動支承	

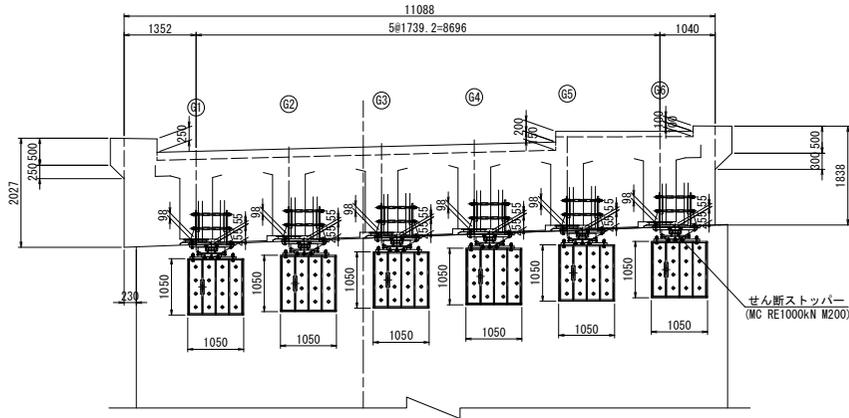
## 実施

年度	
種別	
工事名	(一) 桜江町インター線 (山中大橋) 防災対策 (橋脚補強) 工事 (その2)
通川港名	(一) 桜江町インター線
施工箇所	江津市桜江町長谷 地内
図面名称	山中大橋 補強全体一般図(その2)
縮尺	縮尺 図示
測定	会社及び責任者
設計	
業の内	

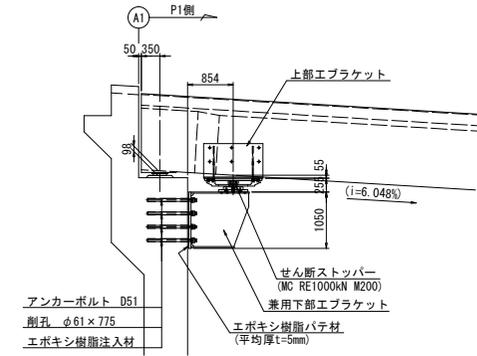
# 山中大橋 支承補完構造図(その1) S=1:50

取付図 : A1橋台

正面図(1-1)

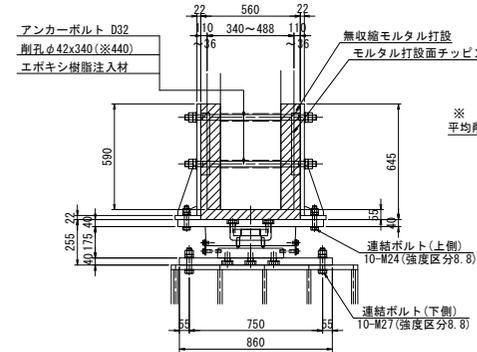


側面図(2-2)

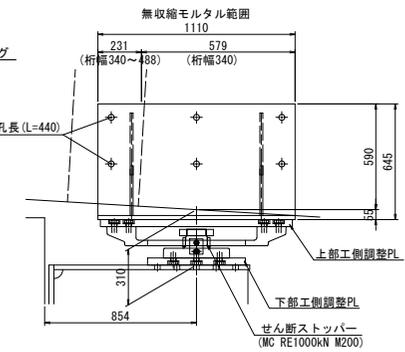


上部工取付詳細図 S=1:15

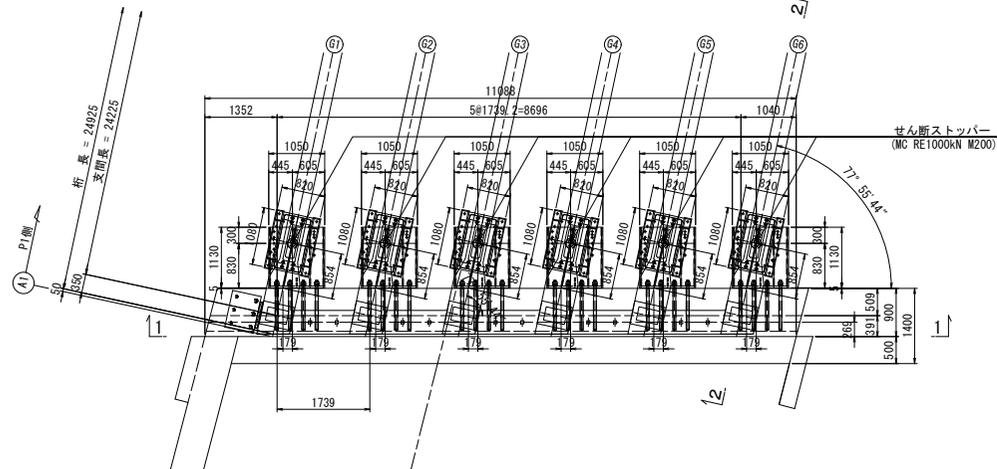
正面図



側面図



平面図



実施	
年度	
番号	(一) 桜江町インター線(山中大橋)
工事名	防災交付金「橋梁耐震」工事(その2)
運川港名	(一) 桜江町インター線
施工箇所	江津市桜江町長谷 地内
図面名称	山中大橋 支承補完構造図(その1)
縮尺	図示
設計	会社及び責任者
測定	
設計	
業の内	

注記

- 1) 図中詳細寸法は、現地実測の上決定のこと。
- 2) ブラケットの製作は、現地調査の上、最終決定のこと。
- 3) アンカーボルト孔位置は鉄筋探査の上、削孔を行い、実測の上決定のこと。

# 山中大橋 支承補完構造図(その5) S=1:50

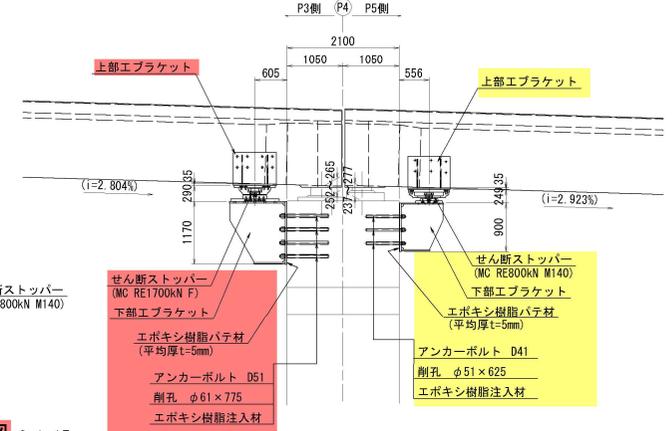
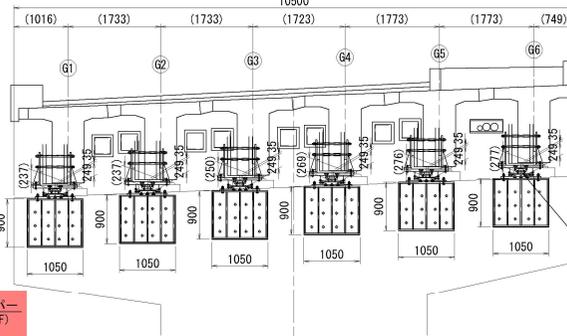
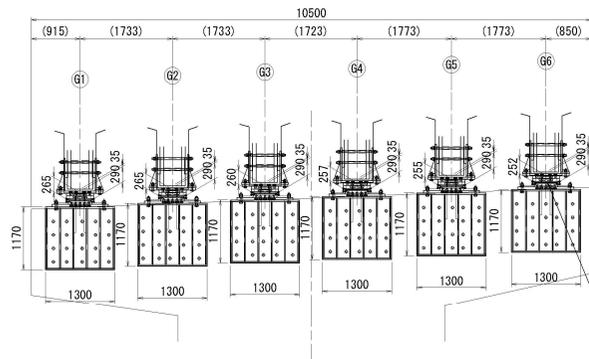
取付図：P4橋脚

正面図

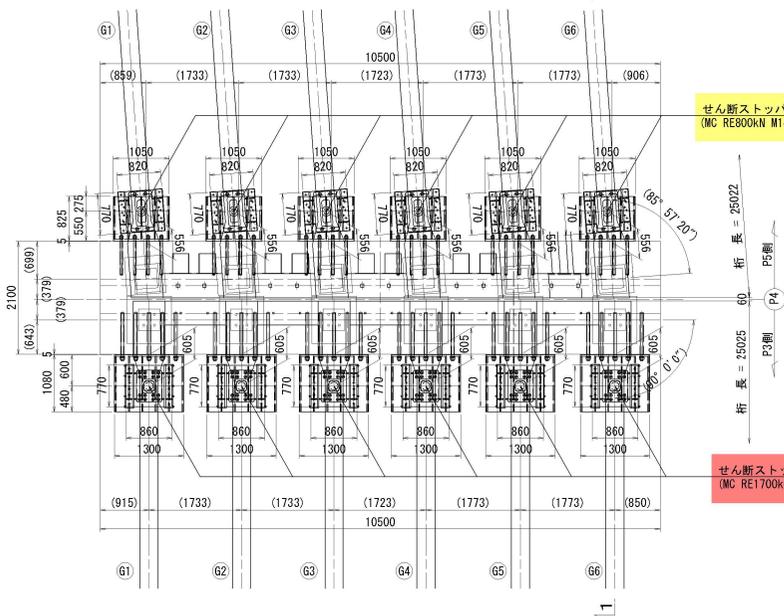
終点側

側面図(1-1)

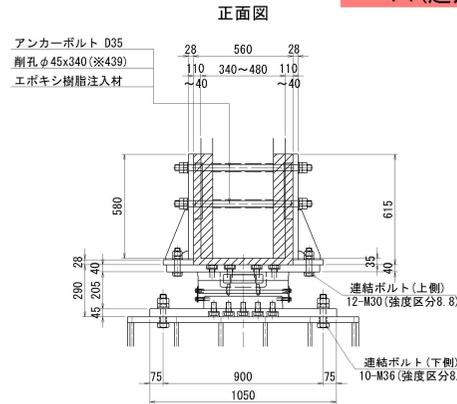
起点側



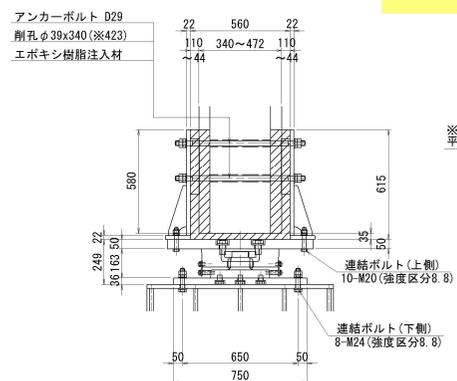
平面図



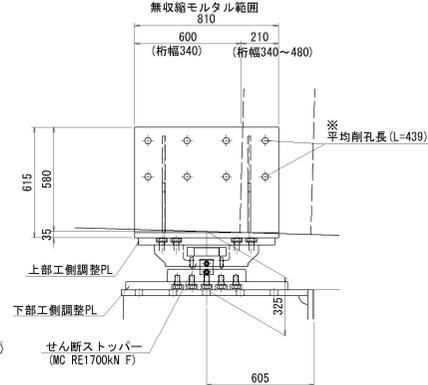
上部工取付詳細図 S=1:15  
P4(起点側)



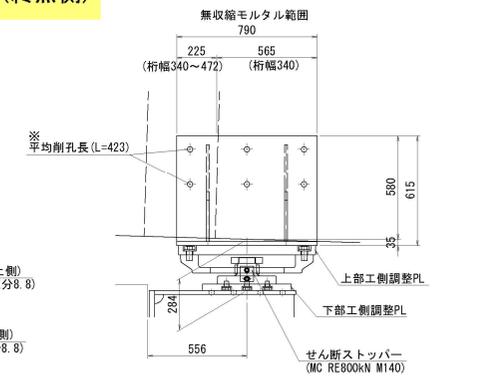
P4(終点側)



側面図



P4(終点側)



- 注記)
- 1) 図中詳細寸法は、現地実測の上決定のこと。
  - 2) フラケットの製作は、現地調査の上、最終決定のこと。
  - 3) アンカーボルト孔位置は鉄筋探査の上、削孔を行い、実測の上決定のこと。

実施

年度	年
種号	号
工事名	(一) 桜江インター線(山中大橋) 府安交付金「橋梁補修」工事「その2」
送川港名	(一) 桜江インター線
施工箇所	江津市桜江町長谷 地内
図面名称	山中大橋 支承補完構造図(その5)
縮尺	図示
測定	会社及び責任者
設計	
	業の内



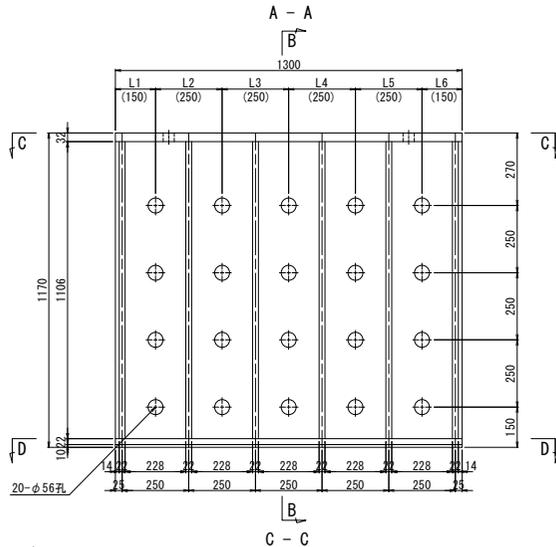
# 山中大橋 支承補完構造図(その13) S=1:10

## ブラケット詳細図(RE-1700kN) : P4橋脚(起点側)

(製作数=6)

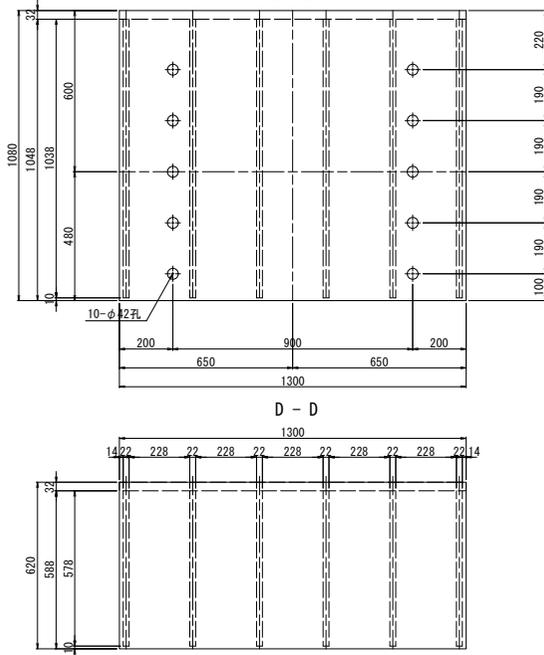
( )内数値は、アンカー基本配置の数値とする。

### 下部エブラケット



下部エブラケット : 1基あたり  
 1-Base PL 1170×32×1300 (SM490YB)  
 1-Flg PL 1048×32×1300 (SM490YB)  
 1-Flg PL 588×22×1300 (SM490YB)  
 6-Rib PL 1038×22×1106 (SM490YB)

### 下部調整プレート

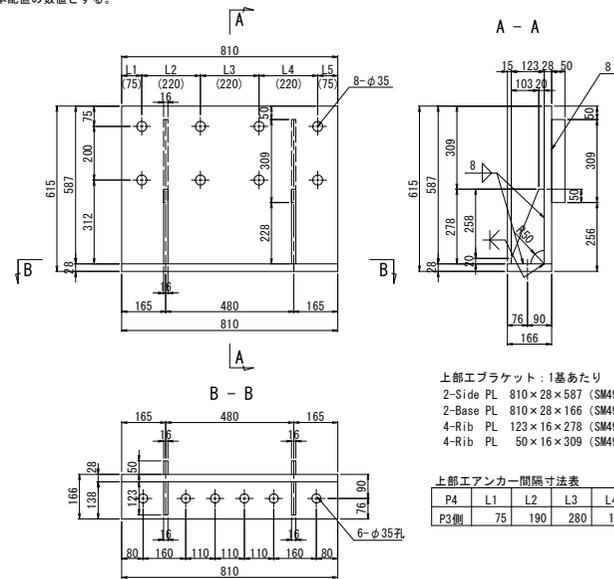


アンカー間隔寸法表

P4起	L1	L2	L3	L4	L5	L6
G1	150	250	290	250	250	110
G2	100	300	205	250	295	150
G3	120	300	200	250	300	130
G4	150	300	245	205	300	100
G5	130	290	250	200	300	130
G6	100	300	250	200	300	150

下部調整プレート : 1基あたり  
 1-PL 910×45×1050 (SM520C)  
 10-連結ボルト M36×160 (強度区分8.8) (2-N, 2-W)

### 上部エブラケット



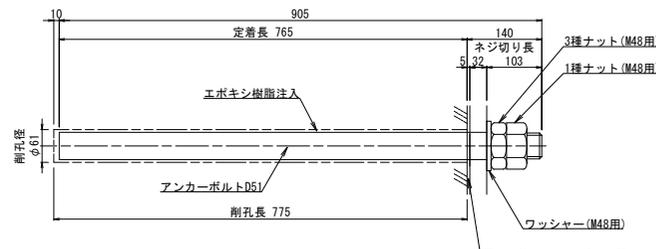
上部エブラケット : 1基あたり  
 2-Side PL 810×28×587 (SM490YB)  
 2-Base PL 810×28×166 (SM490YB)  
 4-Rib PL 123×16×278 (SM490YA)  
 4-Rib PL 50×16×309 (SM490YA)

上部エアンカー間隔寸法表

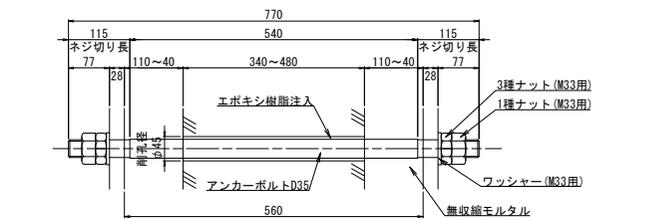
P4	L1	L2	L3	L4	L5
P3側	75	190	280	190	75

### アンカーボルト詳細図 S=1:5

#### 下部工側

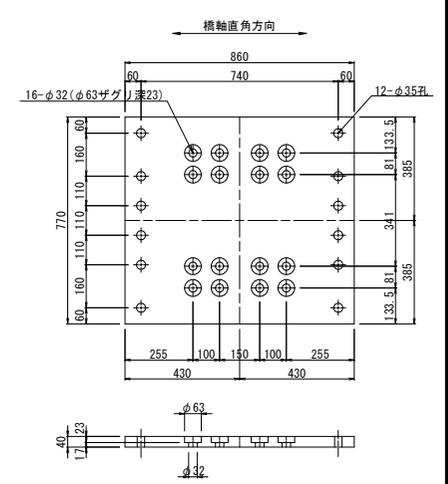


#### 上部工側



上部エアンカーボルト : 1基あたり  
 8-Anc Bolt D35×770 (SD345)  
 16-Nut M33 (1種, 強度区分5)  
 16-Nut M33 (3種, 強度区分5)  
 16-Washer M33用 (硬さ区分100HV)

### 上側調整プレート



上側調整プレート : 1基あたり  
 1-PL 770×40×860 (SM490YB)  
 12-連結ボルト M30×130 (強度区分8.8) (2-N, 2-W)

下部エアンカーボルト : 1基あたり  
 20-Anc Bolt D51×905 (SD345)  
 20-Nut M48 (1種, 強度区分5)  
 20-Nut M48 (3種, 強度区分5)  
 20-Washer M48用 (硬さ区分100HV)

#### 注記

- 1) 図中詳細寸法は、現地実測の上決定のこと。
- 2) ブラケットの製作は、現地調査の上、最終決定のこと
- 3) アンカーボルト孔位置は鉄筋探索の上、削孔を行い、実測の上決定のこと。
- 4) 鋼材接地面に不陸がある場合は、雨水が浸入しないように処理すること。
- 5) PCT桁、RC橋脚付きのブラケットは下記の通りの溶融亜鉛めっき (JIS H 8641) とする。  
HDZT 77 鋼板  
HDZT 49 アンカーボルト (ネジ切り部のみ)
- 6) ナット・ワッシャーはメッキ品を使用すること。
- 7) ナットはJIS B 1181に準拠したものを使用すること。入手困難な場合は、旧JISの付属書規定に沿ったもので代用してもよい。
- 8) 寸法のないR形溶接の表示のある箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

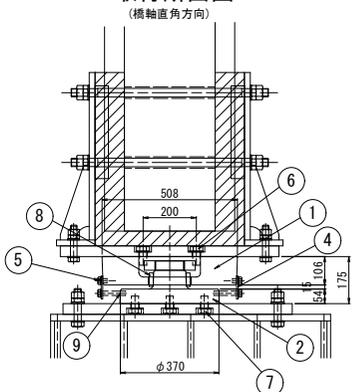
#### 実施

年度	番号	工事名	通川港名	施工箇所	縮尺	図示
	(一) 桜江川インター線 (山中大橋)	株式会社「橋梁建設」工事「木造」	(一) 桜江川インター線	江津市桜江町長谷 地内		
山中大橋 支承補完構造図(その13)						
設計 会社及び責任者						
業の内						

# 山中大橋 支承補完構造図(その18) S=1:5

せん断ストッパー(RE-1000kN-M200)詳細図：A1橋台

取付断面図 S=1:10

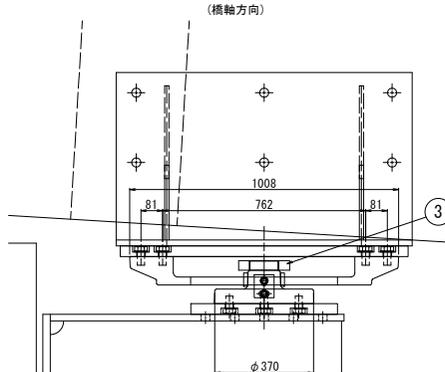


① ポット部品 S=1:5

φ (25)

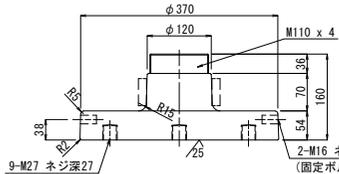
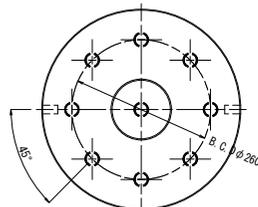
可動タイプ(M-200)

取付側面図 S=1:10



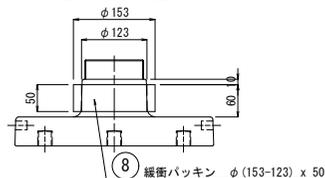
② ストッパー部品 S=1:5

φ (25)



※側面の抜き勾配は、3/100 とする。

緩衝パッキン取付図



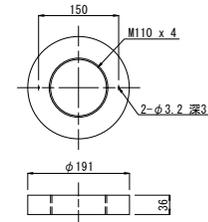
## 材料表

(製作数=6)

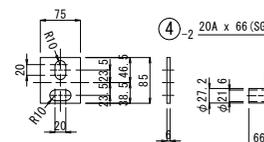
部番	名称	寸法	材質	個数	備考
1	ポット部品	1005 x 501 x 106	SCW480N	1	
2	ストッパー部品	φ370 x 160	SCW480N	1	
3	リングナット部品	φ191 x 36	S45CN	1	
4-1	固定用プレート	75 x 85 x 6	SS400	2	FB
4-2	スペーサー	20A x 66	SGP	2	
5	固定用ボルト、ワッシャー	M16 x 25, 90	強度区分4.8	2 / 2	
6	セットボルト、ワッシャー	M27 x 50	強度区分8.8	8	上側
7	セットボルト、ワッシャー	M27 x 45	強度区分8.8	9	下側
8	緩衝パッキン	φ (153-123) x 50	合成ゴム	1	低反発型合成ゴム(複合構造型)
9	化粧ボルト、ワッシャー	M16 x 25	強度区分4.8	2	
10	アイボルト	M16用	SS400	-	

- \*1) □内部品は、溶融亜鉛メッキ(HDZT 77)  
○内部品は、溶融亜鉛メッキ(HDZT 49)
- \*2) アイボルトは、架設に必要な本数を協議して決定する。
- \*3) 固定用プレート、スペーサーは、ストッパーセット後取り除く。  
符号5の固定用ボルトは、化粧ボルトとして使用する。
- \*4) 固定用プレート、スペーサーは、高濃度亜鉛未塗装 30μmとする。
- \*5) せん断ストッパーは、水平になるよう設計する。  
縦断勾配がある場合は、テーパプレートで調整すること。
- \*6) 施工に関する部品は変更する場合がある。

③ リングナット部品 S=1:5



④-1 固定用プレート S=1:5

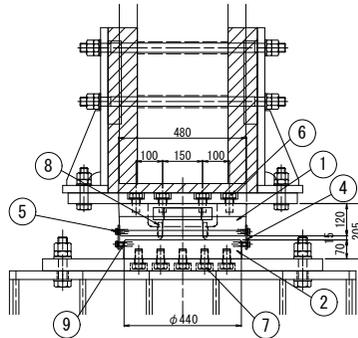


実施

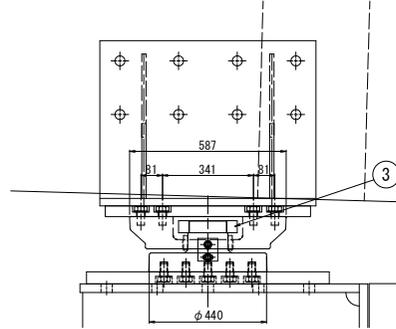
年度	
番号	
工事名	(一) 桜江川インター線(山中大橋) 防災対策「橋脚耐震」工事(その2)
運川港名	(一) 桜江川インター線
施工箇所	江津市桜江町長谷 地内
図面名称	山中大橋 支承補完構造図(その18)
縮尺	図示
会社名	会社及び責任者
測量	
設計	
業の内	

山中大橋 支承補完構造図(その22) S=1:5  
せん断ストッパー(RE-1700kN-F)詳細図:P4橋脚(起点側)

取付断面図 S=1:10  
(橋軸直角方向)

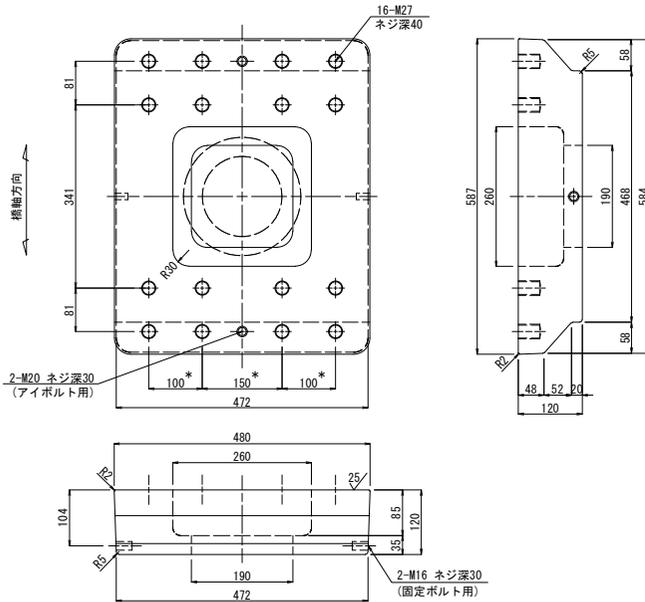


取付側面図 S=1:10  
(橋軸方向)

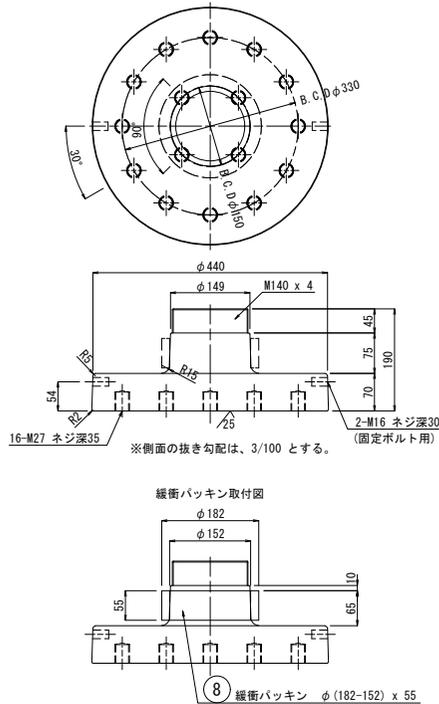


① ポット部品 S=1:5  
▽ ( 25° )

固定タイプ(F)



② ストッパー部品 S=1:5  
▽ ( 25° )



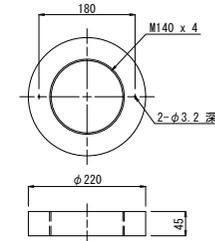
材料表

(製作数=6)

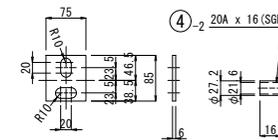
部番	名称	寸法	材質	個数	備考
1	ポット部品	584 x 472 x 120	SCW480N	1	
2	ストッパー部品	φ440 x 190	SCW480N	1	
3	リングナット部品	φ220 x 45	S45CN	1	
4-1	固定用プレート	75 x 85 x 6	SS400	2	FB
4-2	スベーサー	20A x 16	SGP	2	
5	固定用ボルト、ワッシャー	M16 x 25.40	強度区分4.8	2 / 2	
6	セットボルト、ワッシャー	M27 x 50	強度区分8.8	16	上側
7	セットボルト、ワッシャー	M27 x 50	強度区分8.8	16	下側
8	緩衝パッキン	φ(182-152) x 55	合成ゴム	1	低反発型合成ゴム(複合構造型)
9	化粧ボルト、ワッシャー	M16 x 25	強度区分4.8	2	
10	アイボルト	M16用	SS400	-	

- \*1) □内部品は、溶融亜鉛メッキ(HDZT 77)  
○内部品は、溶融亜鉛メッキ(HDZT 49)
- \*2) アイボルトは、架設に必要な本数を協議して決定する。
- \*3) 固定用プレート、スベーサーは、ストッパーセット後取り除く。  
符号5の固定用ボルトは、化粧ボルトとして使用する。
- \*4) 固定用プレート、スベーサーは、高強度亜鉛未塗装 30μmとする。
- \*5) せん断ストッパーは、水平になるよう設計する。  
縦断勾配がある場合は、テーパプレートで調整すること。
- \*6) 施工に関する部品は変更する場合がある。

③ リングナット部品 S=1:5



④-1 固定用プレート S=1:5



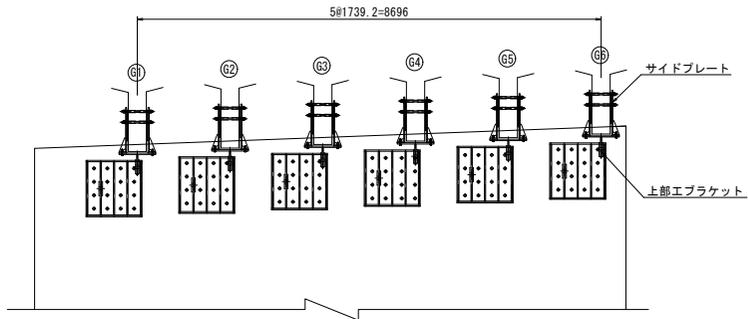
実施

年度	
番号	
工事名	(一) 桜江駅インター線(山中大橋) 防災交付金「橋梁補修」工事(その2)
運川港名	(一) 桜江駅インター線
施工箇所	江津市桜江町長谷 地内
図面名称	山中大橋 支承補完構造図(その22)
縮尺	図示
設計	会社及び責任者
測量	
設計	
業の内	

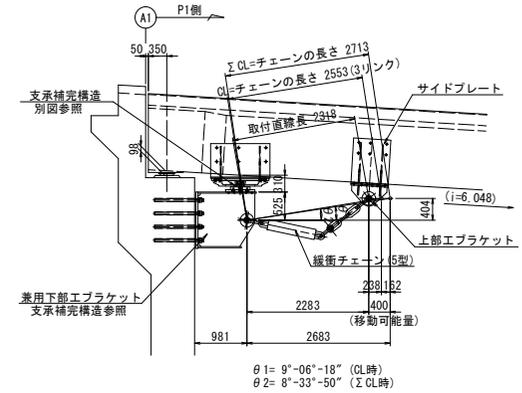
# 山中大橋 落橋防止構造図(その1) S=1:50

取付図：A1橋台

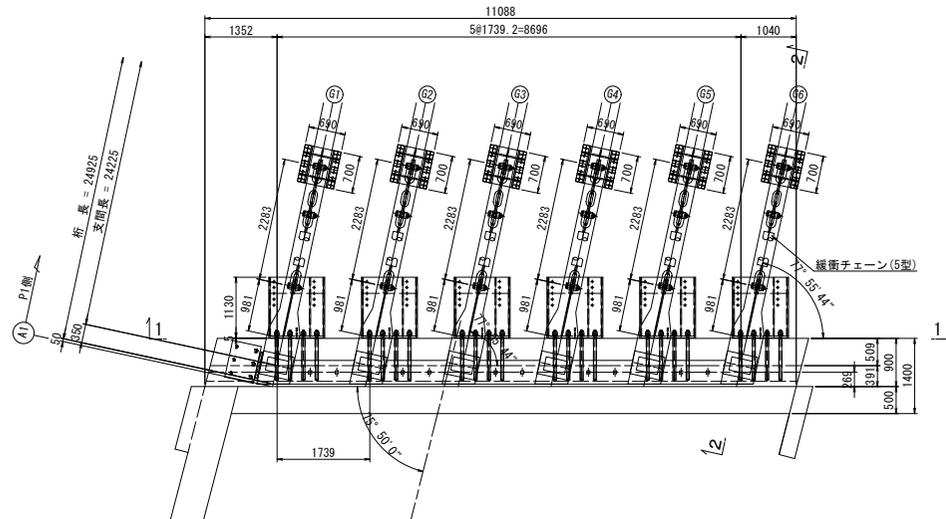
正面図(1-1)



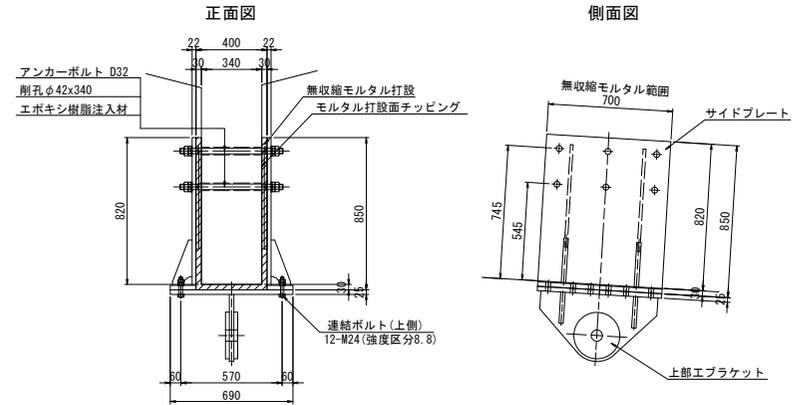
側面図(2-2)



平面図



上部工取付詳細図 S=1:15



**実施**

年度	
番号	
工事名	(一) 桜江インター線(山中大橋) 防犯交付金「橋梁耐震」工事(その2)
運川港名	(一) 桜江地インター線
施工箇所	江津市桜江町長谷 地内
図面名称	山中大橋 落橋防止構造図(その1)
縮尺	縮尺 図示
設計	会社及び責任者
測量	
設計	
業内	

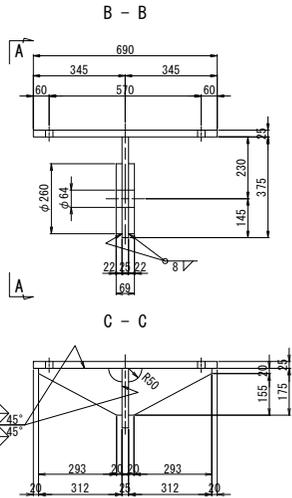
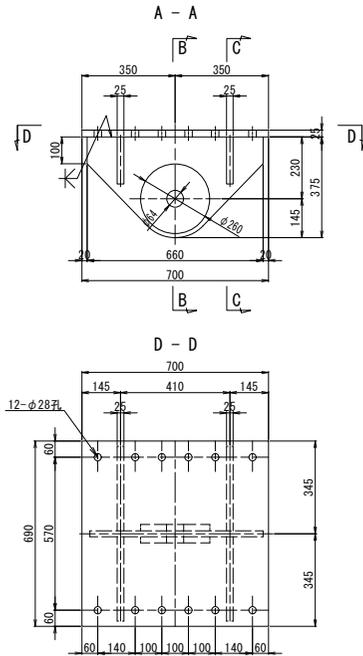
- 注記)
- 1) 図中詳細寸法は、現地実測の上決定のこと。
  - 2) フラケットの製作は、現地調査の上、最終決定のこと。
  - 3) アンカーボルト孔位置は鉄筋探査の上、削孔を行い、実測の上決定のこと。

# 山中大橋 落橋防止構造図(その2) S=1:10

## ブラケット詳細図(5型) : A1橋台

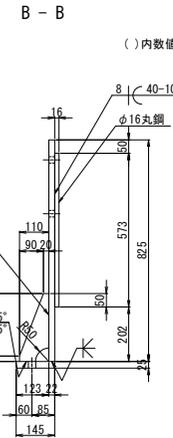
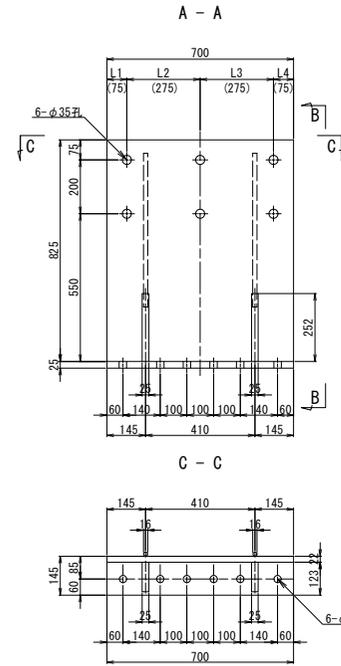
(製作数=6)

### 上部エブラケット



- 上部エブラケット : 1主桁当り
- 1-Base PL 690×25×700 (SM490YB)
  - 1-Top PL 375×25×660 (SM490YB)
  - 2-Ring PL φ260×22 (SM490YB)
  - 4-Rib PL 175×25×312 (SM490YB)
  - 12-B.N M24×105 (1種N, 3種M, 2種付き, 強度区分8.8) メッキ品

### サイドプレート



- サイドプレート : 1基あたり
- 2-Side PL 700×22×825 (SM490YB)
  - 2-Base PL 700×25×145 (SM490YB)
  - 4-Rib PL 110×25×252 (SM490YB)
  - 4-丸鋼 φ16×573 (SS400)

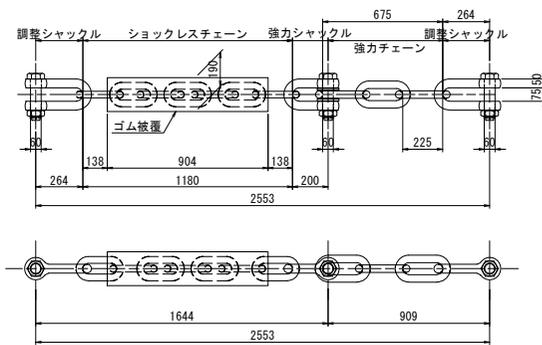
上部エアンカー間隔寸法表

	A1	L1	L2	L3	L4
P1割	105	215	305	75	

( )内数値は、アンカー基本配置の数値とする。

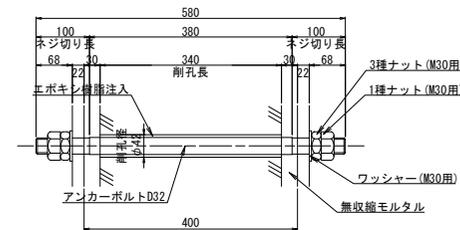
### 緩衝チェーン詳細図 S=1:15

(5型3リンク, 許容荷重 825kN)



- 1-ショックレスチェーン 5型 (SCM420H)
- 3-強力チェーンφ42 (SCM420H)
- 2-調整シャックルφ50 (SCM435)
- 1-強力シャックルφ50 (SCM435)

### アンカーボルト詳細図 S=1:5



- 上部エアンカーボルト : 1基あたり
- 6-Anc Bolt D32×580 (SD345)
  - 12-Nut M30 (1種, 強度区分5)
  - 12-Nut M30 (3種, 強度区分5)
  - 12-Washer M30用 (硬さ区分100HV)

※ ブラケット用アンカーボルトは、ネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

- 注記)
- 1) 図中詳細寸法は、現地実測の上決定のこと。
  - 2) ブラケットの製作は、現地調査の上、最終決定のこと
  - 3) アンカーボルト孔位置は鉄筋探索の上、削孔を行い、実測の上決定のこと。
  - 4) 鋼材接地面に不陸がある場合は、雨水が浸入しないように処理すること。
  - 5) PCT析、RC橋台付きのブラケットは下記の通りの溶融亜鉛メッキ(JIS H 8641)とする。  
HDZT 77 鋼板  
HDZT 49 アンカーボルト(ネジ切り部のみ)
  - 6) ナット・ワッシャーはメッキ品を使用すること。
  - 7) ナットはJIS B 1181に準拠したものを使用すること。
  - 8) 入手困難な場合は、旧JISの付属書規定に沿ったもので代用してもよい。
  - 9) 緩衝チェーン長さ及び取付位置は、現地調査の上、最終決定のこと。
  - 10) チェーン及びシャックルの材質は、SCM鋼または同等品とする。
  - 11) 現地調査の結果、変更を行う場合は下記を原則とする。  
※チェーンの長さを変更する場合は、強力チェーンのリンク数によって行い、ねじれが発生しないように偶数倍の増減を行う。  
※既設の状況によってアンカー、ボルト間隔等を変更する場合は、部材検討を行うこと。
  - 12) 寸法のないK形溶接の表示のある箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

### 実施

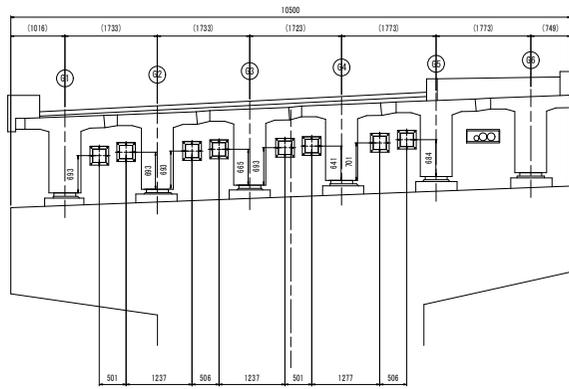
年度	年
番号	(一) 桜江川インター線(山中大橋)
工事名	防災対策「橋台補修」工事(その2)
通川港名	(一) 桜江川インター線
施工箇所	江津市桜江町長谷 地内
山中大橋	
図面名称	落橋防止構造図(その2)
縮尺	図示
設計	会社及び責任者
測 量	
設 計	

業の内

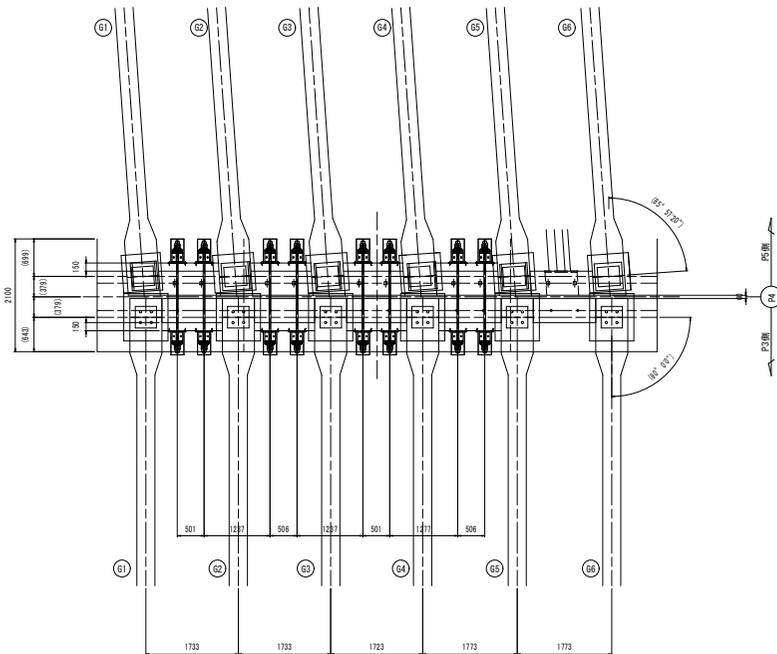
# 山中大橋 落橋防止構造図(その3)

取付図及び詳細図：P4橋脚

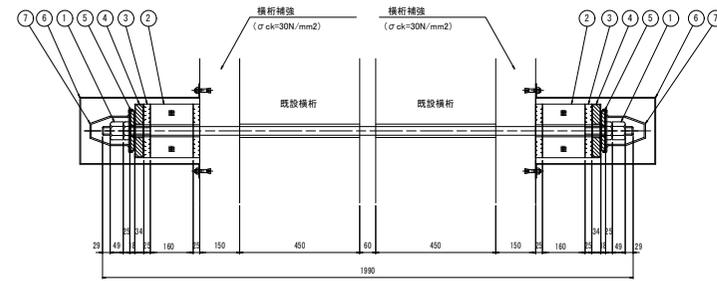
断面図 S=1:50



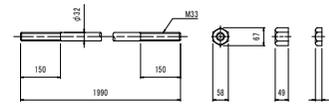
平面図 S=1:50



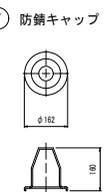
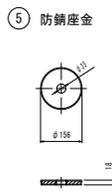
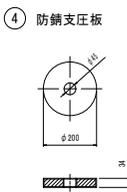
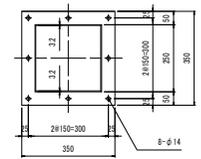
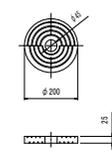
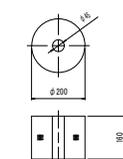
取付詳細図 S=1:10



- ① PC鋼棒・ナット
- ② 伸縮スポンジ
- ③ 緩衝パッキン
- ④ 防錆支圧板
- ⑤ 防錆座金
- ⑦ 防錆キャップ
- ⑥ 保護カバー



注) ゴム後面径φ42とする。



## 材料表

No	名称	寸法	材質	単位	P4	備考
1	PC鋼棒・ナット	φ32x1990	SBPR930/1080	組	8	ゴムラミング なし時は12-160仕様
2	伸縮スポンジ	φ200x160	単泡クロロレンスポンジ	枚	16	
3	緩衝パッキン	φ200x25	合成ゴム	枚	32	
4	防錆支圧板	φ200x34	SS400+ネオプラス	枚	16	
5	防錆座金	φ156x18	SS400+ネオプラス	枚	16	
6	保護カバー	□250x450	SS400+SGP	本	16	図のφφ コンクリートアンカーをむ
7	防錆キャップ	φ162x160	合成ゴム	個	16	

## 実施

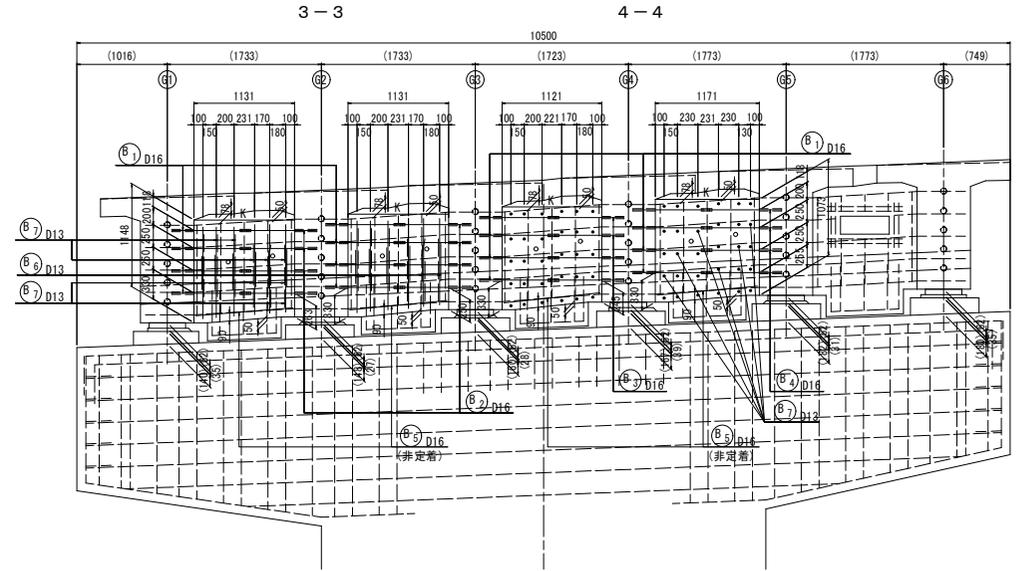
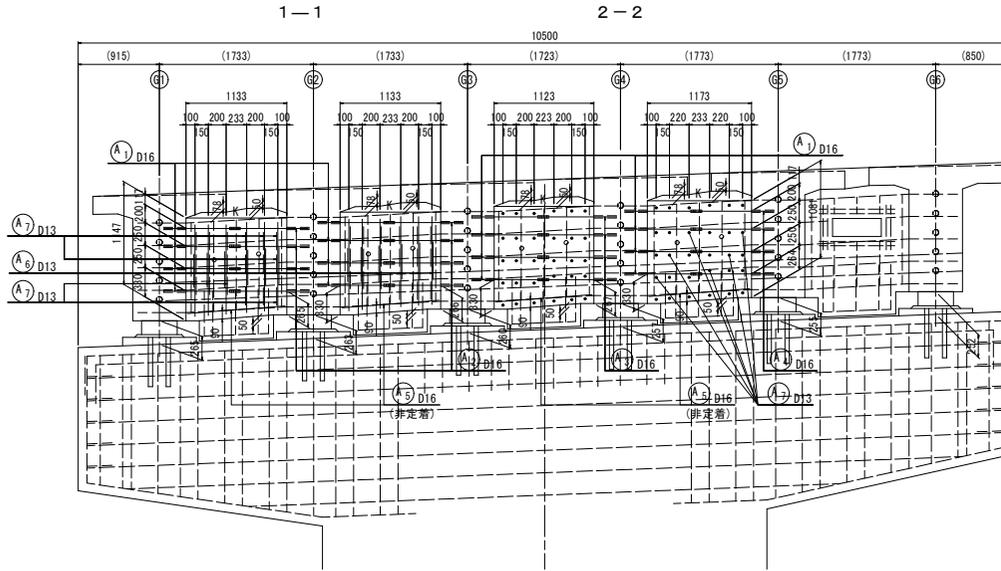
年度	
種別	
工事名	(一) 桜江川インター線(山中大橋) 防犯交付金「橋梁耐震」工事(4号)
河川番号	(一) 桜江川インター線
施工箇所	江津市桜江町長谷 地内
調査名称	山中大橋 落橋防止構造図(その3)
縮尺	縮尺 指示
調査者	会社及び責任者
測量	
設計	
	業の内

# 山中大橋 落橋防止構造図(その4) S=1:30

## 横桁補強配筋図(1) : P4橋脚

起点側

終点側

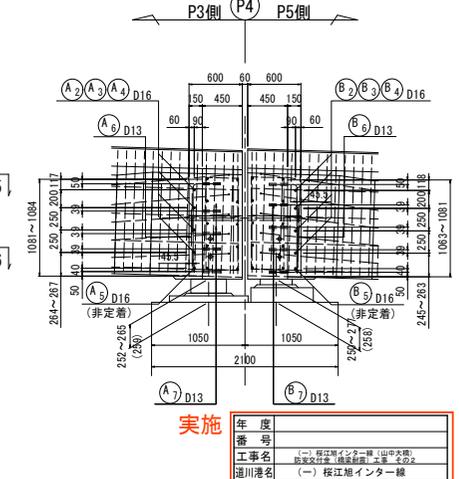
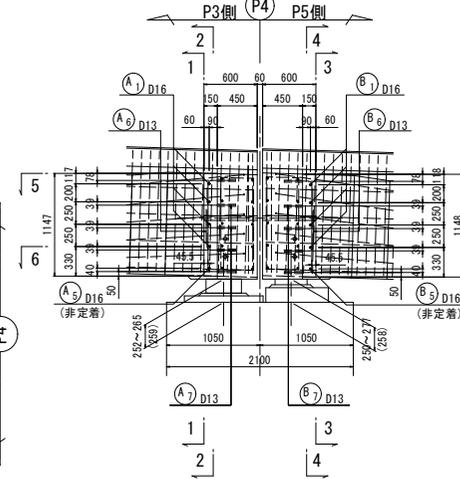
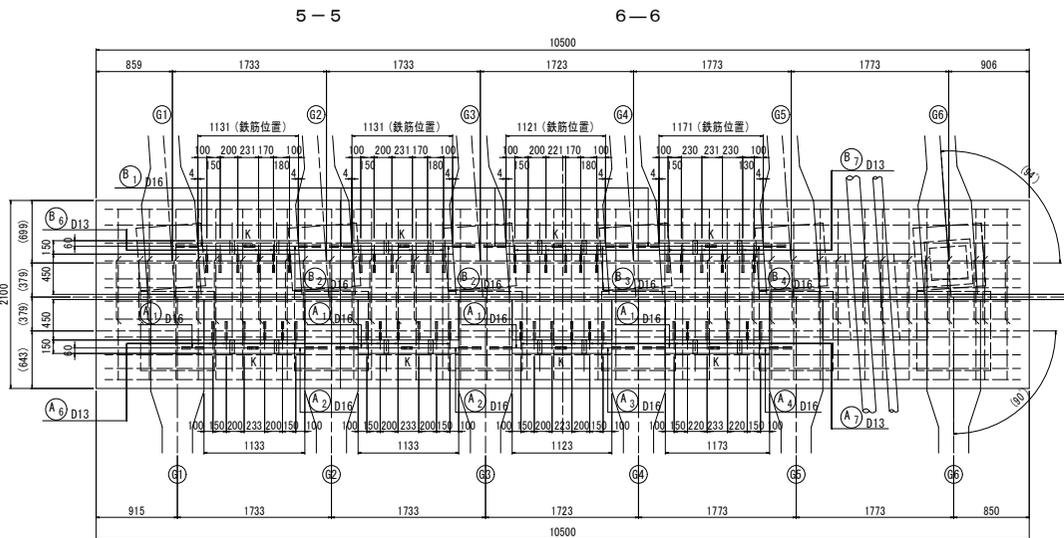


※ 作図において主桁鋼材と横桁鋼材が干渉しているが、横桁の鋼材(鉄筋、PC鋼材)は既設横桁中央位置で表記。主桁PC鋼材は補強横桁鉄筋位置で表記しているため実際には干渉しない。

平面図

側面図(主桁右側面)

側面図(主桁左側面)



- 注記
- 1) 施工前に既設形状寸法を確認すること。
  - 2) アンカー定着鉄筋の剛孔にあたっては、既設部分の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に調査、確認すること。
  - 3) 既設コンクリート面は、チッピングを行うこと。
  - 4) K印は、機械式継手を示す。

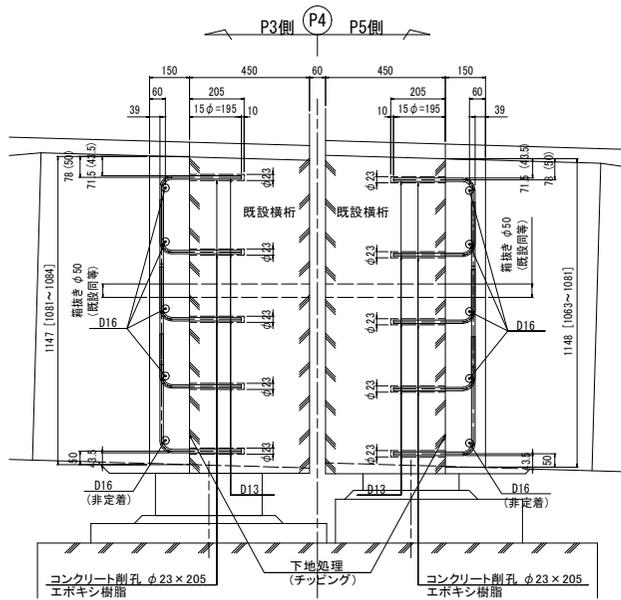
実施

年度	番号	工事名	運川港名	施工箇所	山中大橋	落橋防止構造図(その4)	縮尺	1:30	会社及び責任者	業の内
(一)	001	桜江橋インター線(山中大橋)	(一)	江津市桜江町長谷	山中大橋	落橋防止構造図(その4)	縮尺	1:30	会社及び責任者	業の内

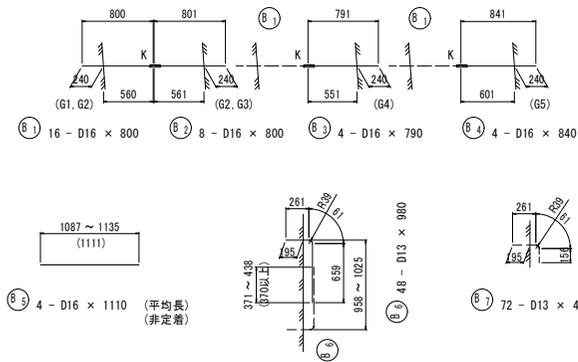
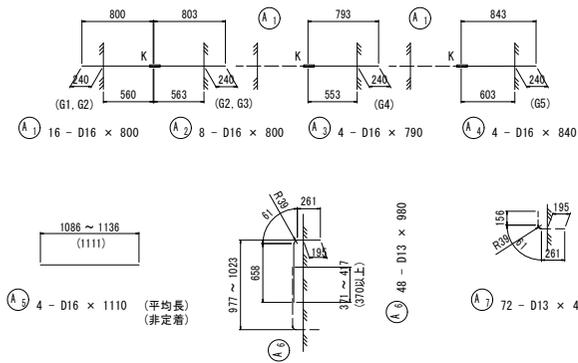
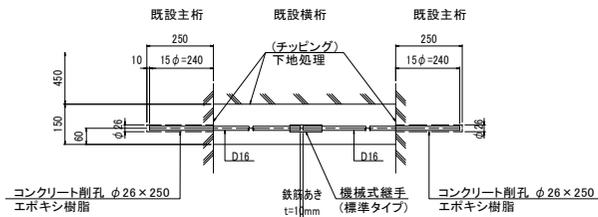
# 山中大橋 落橋防止構造図(その5) S=1:30

## 横桁補強配筋図(2) : P4橋脚

定着長・かぶり詳細図 S=1:10  
断面図



平面図



鉄筋質量表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
(補強横桁 - 起点側)							
A 1	D16	800	16	1.56	1.25	20	K (16)
2	D16	800	8	1.56	1.25	10	K (8)
3	D16	790	4	1.56	1.23	5	K (4)
4	D16	840	4	1.56	1.31	5	K (4)
5	D16	1110	4	1.56	1.73	7	(平均長)
6	D13	980	48	0.995	0.98	47	┌
7	D13	480	72	0.995	0.48	35	└
						129	kg
						D16	47
						D13	82
						合計	129
						機械式継手 D16	32 箇所

横桁補強コンクリート:  $\sigma_{ck}=30N/mm^2$

鉄筋質量表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
(補強横桁 - 終点側)							
B 1	D16	800	16	1.56	1.25	20	K (16)
2	D16	800	8	1.56	1.25	10	K (8)
3	D16	790	4	1.56	1.23	5	K (4)
4	D16	840	4	1.56	1.31	5	K (4)
5	D16	1110	4	1.56	1.73	7	(平均長)
6	D13	980	48	0.995	0.98	47	┌
7	D13	480	72	0.995	0.48	35	└
						129	kg
						D16	47
						D13	82
						合計	129
						機械式継手 D16	32 箇所

横桁補強コンクリート:  $\sigma_{ck}=30N/mm^2$

実施

年度	年 度
番 号	番 号
工事名	(一) 桜江駅インター線(山中大橋) 防犯カメラ(機械式継手)工事(その5)
進川港名	(一) 桜江駅インター線
施工箇所	江津市桜江町長谷 地内
図面名称	山中大橋 落橋防止構造図(その5)
縮尺	縮尺 図示
測 量	測 量
設 計	設 計
責任者	会社及び責任者
業 内	業 内

注 記

- 1) 施工前に既設形状寸法を確認すること。
- 2) アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設部分の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に調査、確認すること。
- 3) 既設コンクリート面は、チッピングを行うこと。
- 4) K印は、機械式継手を示す。

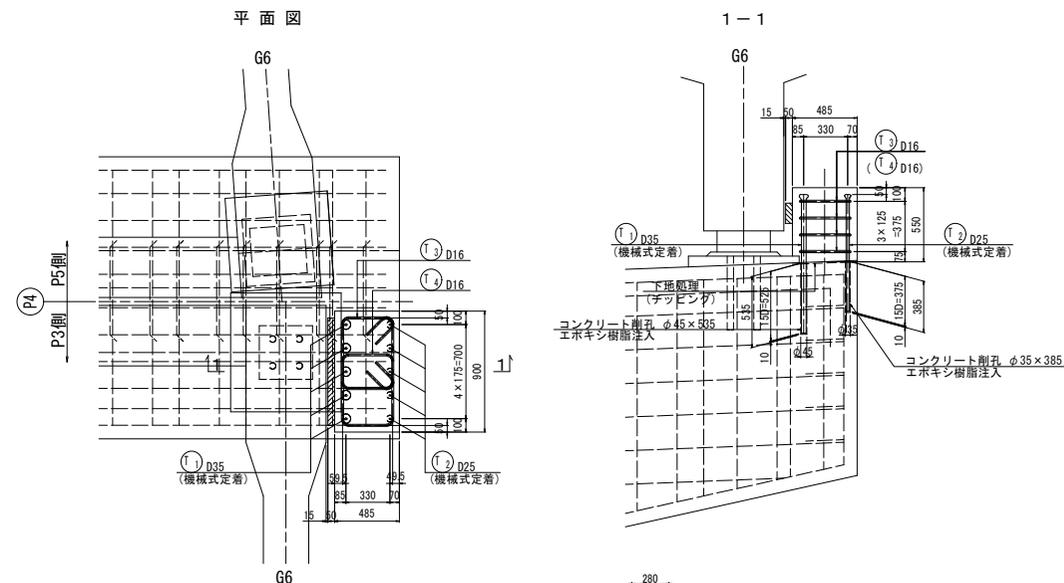
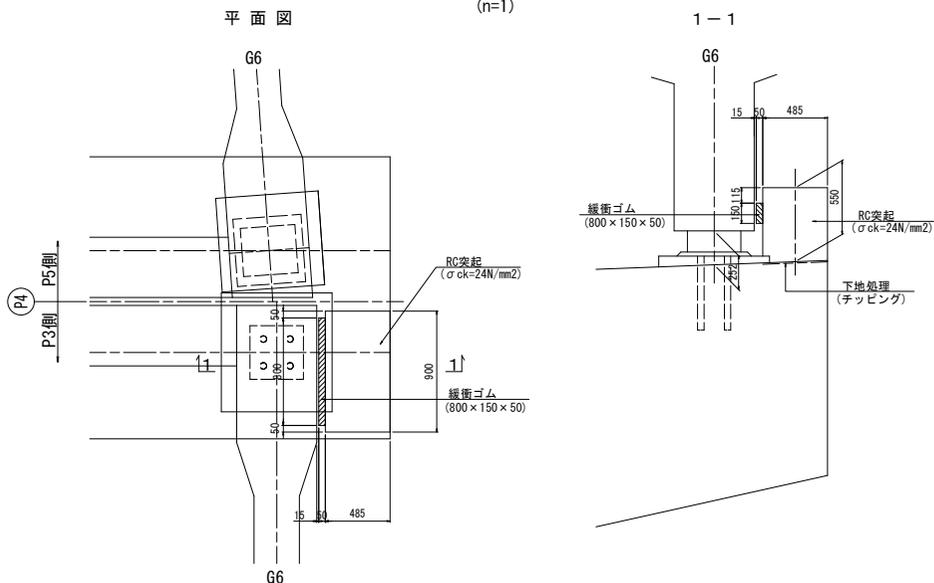


# 山中大橋 横変位拘束構造図(その2) S=1:20

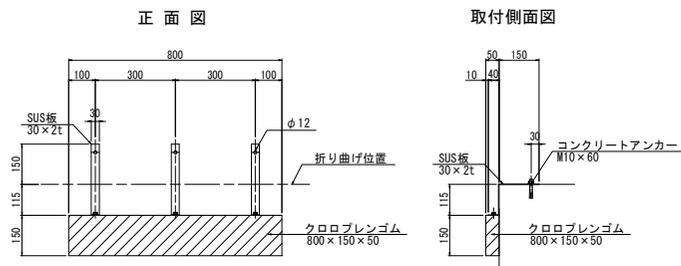
(P4橋脚 RC突起詳細図)

構造図 (n=1)

配筋図



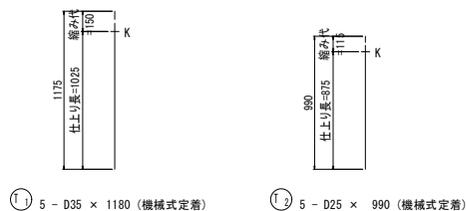
緩衝ゴム詳細図 S=1:10



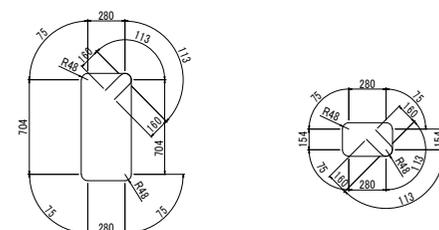
緩衝ゴム材料表

(1箇所当たり)

名称	寸法	材質	単位	数量	備考
ツリッパー	800×150×50	クロロブレンゴム SUS	個	1	硬度55° ±5° sba処理
コンクリートアンカー	M10×60	SUS	本	3	



① 5 - D35 × 1180 (機械式定着) ② 5 - D25 × 990 (機械式定着)



③ 4 - D16 × 2740 ④ 4 - D16 × 1640

※ 鋭角フックは、交互に配置する。

鉄筋質量表

(SD345)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
T 1	D35	1180	5	7.51	8.86	44	T <sup>K</sup> (S)
2	D25	990	5	3.98	3.94	20	T <sup>K</sup> (S)
3	D16	2740	4	1.56	4.27	17	□
4	D16	1640	4	1.56	2.56	10	□
							91 kg
(P4橋脚)				D35	44 kg		
				D25	20 kg		
				D16	27 kg		
				合計	91 kg		
機械式定着				D35	5箇所		
機械式定着				D25	5箇所		

機械式定着詳細図 S=1:10



※ 頭部加工はTH20による。

実施

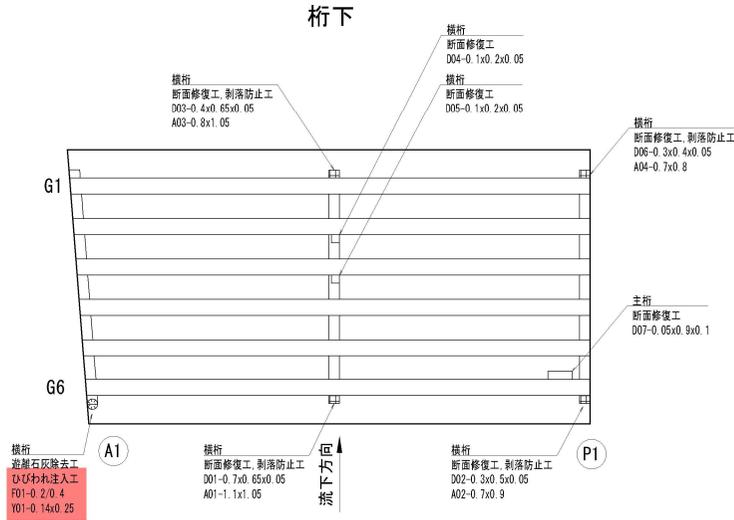
年度	年
種号	(一) 桜江町インター線(山中大橋)
工事名	防災交付金「橋梁耐震」工事(本橋)
運川港名	(一) 桜江町インター線
施工箇所	江津市桜江町長谷 地内
図面名称	山中大橋
縮尺	縮尺 図示
測定	会社及び責任者
設計	
業の内	

注記

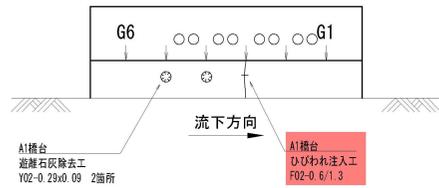
- 1) 施工前に既設形状寸法を確認すること。
- 2) アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設部分の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に調査、確認すること。
- 3) 既設コンクリート面は、チッピングを行うこと。
- 4) K印は、機械式定着を示す。

# 山中大橋 補修図(その1)

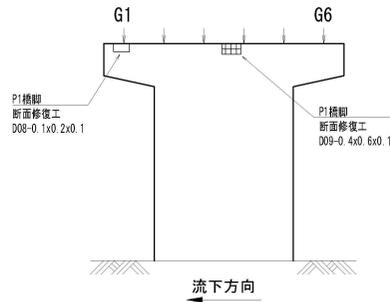
## コンクリート部材補修工(1径間)



A1橋台正面



P1橋脚(A1側)正面



対策工数量表:断面修復工(左官工法)  
ポリマーセメントモルタル

損傷箇所	補修番号	径間	損傷項目	形状寸法(m)	箇所数	数量(m <sup>3</sup> )	備考
主桁	D07	1	ジャンク	0.05 x 0.90 x 0.10	1	0.005	
横桁	D01	1	PC定着部の異常[浮き]	0.70 x 0.65 x 0.05	1	0.023	
横桁	D02	1	PC定着部の異常[浮き]	0.30 x 0.50 x 0.05	1	0.008	
横桁	D03	1	PC定着部の異常[浮き]	0.40 x 0.65 x 0.05	1	0.013	
横桁	D04	1	断面欠損	0.10 x 0.20 x 0.05	1	0.001	
横桁	D05	1	欠損	0.10 x 0.20 x 0.05	1	0.001	
横桁	D06	1	PC定着部の異常[浮き]	0.30 x 0.40 x 0.05	1	0.006	
上部工小計						0.056	
P1橋脚	D08	1	欠損	0.10 x 0.20 x 0.10	1	0.002	
P1橋脚	D09	1	浮き	0.40 x 0.60 x 0.10	1	0.024	
下部工小計						0.026	
合計						0.082	

断面修復の深さは各部材の配筋図から推定した値である

対策工数量表:剥落防止工(PC定着部)  
ニュークリアクross工法

損傷箇所	補修番号	径間	損傷項目	形状寸法(m)	箇所数	数量(m <sup>2</sup> )	備考
横桁	A01	1	PC定着部の異常[浮き]	1.10 x 1.05	1	1.155	
横桁	A02	1	PC定着部の異常[浮き]	0.70 x 0.90	1	0.630	
横桁	A03	1	PC定着部の異常[浮き]	0.80 x 1.05	1	0.840	
横桁	A04	1	PC定着部の異常[浮き]	0.70 x 0.80	1	0.560	
上部工小計						3.185	
合計						3.185	

対策工数量表:ひびわれ注入工  
エポキシ樹脂注入材

損傷箇所	補修番号	径間	損傷項目	ひびわれ幅(mm)	数量(m)	備考	
横桁	F01	1	ひびわれ	0.20	0.40		
上部工小計						0.40	
A1橋台	F02	1	ひびわれ	0.60	1.30		
下部工小計						1.30	
合計						1.70	

対策工数量表:遊離石灰除去工

損傷箇所	補修番号	径間	損傷項目	形状寸法(m)	箇所数	数量(m <sup>2</sup> )	備考
横桁	Y01	1	遊離石灰	0.14 x 0.25	1	0.035	
上部工小計						0.035	
A1橋台	Y02	1	遊離石灰	0.29 x 0.09	2	0.052	
下部工小計						0.052	
合計						0.087	

遊離石灰の寸法は写真等から推定した値である

### 凡例

補修工法	
F0-0.00/0.00	ひびわれ注入 補修番号-幅(mm)/延長(m)
D0-0.00x0.00x0.00	断面修復(左官工法) 補修番号-幅(m)x高さ(m)x深さ(m)
S0-0.00x0.00	剥落防止(第三者被害予防) 補修番号-幅(m)x高さ(m)
A0-0.00x0.00	剥落防止(PC定着部) 補修番号-幅(m)x高さ(m)
Y0-0.00x0.00	遊離石灰除去工 補修番号-幅(m)x高さ(m)

### 注記:

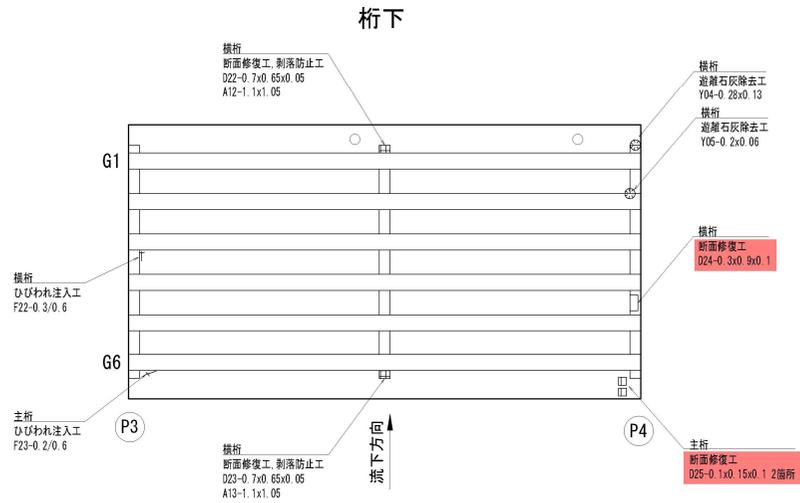
- 各補修図は過去の設計、施工、点検等の既往資料に基づき作成したものである。
- 施工に際しては、現地計測を実施し、寸法や支保物の支障物を確認後、着手すること。
- 現地状況に差異が生じた場合は、監督職員と協議の上、設計変更すること。
- 各損傷は点検調査を基に計上しているが、資料が不足する箇所は推定しているため、施工数量は計測結果を基に、監督職員と協議の上、決定すること。

### 実施

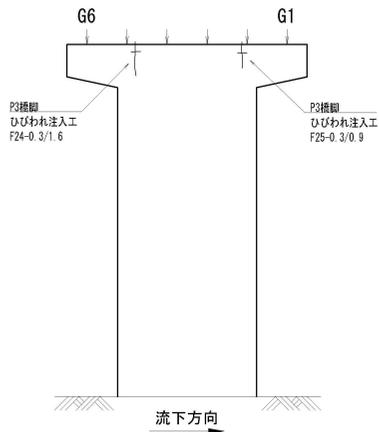
年度	
工事番号	
工事名	(一) 桜江橋インター線(山中大橋) 防災交付金「橋梁補修」工事(その2)
送川港名	(一) 桜江橋インター線
施工箇所	江津市桜江町長谷 地内
図面名称	山中大橋 補修図(その1)
縮尺	図示
測定	会社及び責任者
設計	
業の内	

# 山中大橋 補修図(その4)

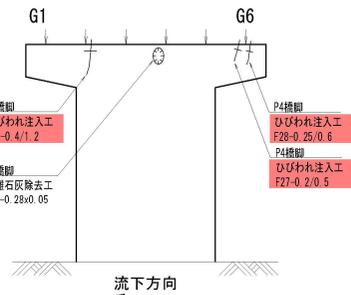
## コンクリート部材補修工(4径間)



P3橋脚 (P4側) 正面



P4橋脚 (P3側) 正面



### 凡例

補修工法	
F0-0.00/0.00	ひびわれ注入 補修番号-幅(mm)/延長(m)
D0-0.00x0.00x0.00	断面修復(左官工法) 補修番号-幅(m)x高さ(m)x深さ(m)
S0-0.00x0.00	剥落防止(第三者被害予防) 補修番号-幅(m)x高さ(m)
A0-0.00x0.00	剥落防止(PC定着部) 補修番号-幅(m)x高さ(m)
Y0-0.00x0.00	遊離石灰除去工 補修番号-幅(m)x高さ(m)

対策工数量表:断面修復工(左官工法)  
ポリマーセメントモルタル

構造物箇所	補修番号	径間	構造物項目	形状寸法(m)	箇所数	数量(m <sup>3</sup> )	備考
主桁	D25	4	鉄筋露出	0.10 x 0.15 x 0.10	2	0.003	
横桁	D22	4	PC定着部の異常[浮き]	0.70 x 0.65 x 0.05	1	0.023	
横桁	D23	4	PC定着部の異常[浮き]	0.70 x 0.65 x 0.05	1	0.023	
横桁	D24	4	欠損・鉄筋露出	0.30 x 0.80 x 0.10	1	0.027	
上部工小計						0.076	
合計						0.076	

断面修復の深さは各部材の配筋図から推定した値である

対策工数量表:剥落防止工(PC定着部)  
ニュークリアクロス工法

構造物箇所	補修番号	径間	構造物項目	形状寸法(m)	箇所数	数量(m <sup>2</sup> )	備考
横桁	A12	4	PC定着部の異常[浮き]	1.10 x 1.05	1	1.155	
横桁	A13	4	PC定着部の異常[浮き]	1.10 x 1.05	1	1.155	
上部工小計						2.310	
合計						2.310	

対策工数量表:ひびわれ注入工  
エポキシ樹脂注入材

構造物箇所	補修番号	径間	構造物項目	ひびわれ幅(mm)	数量(m)	備考
主桁	F23	4	ひびわれ	0.20	0.80	
横桁	F22	4	ひびわれ	0.30	0.80	
上部工小計						1.20
P3橋脚	F24	4	ひびわれ	0.30	1.60	
P3橋脚	F25	4	ひびわれ	0.30	0.90	
P4橋脚	F26	4	ひびわれ	0.40	1.20	
P4橋脚	F27	4	ひびわれ	0.20	0.50	
P4橋脚	F28	4	ひびわれ	0.25	0.80	
下部工小計						4.80
合計						6.00

対策工数量表:遊離石灰除去工

構造物箇所	補修番号	径間	構造物項目	形状寸法(m)	箇所数	数量(m <sup>2</sup> )	備考
横桁	Y04	4	PC定着部の異常[遊離石灰]	0.28 x 0.13	1	0.036	
横桁	Y05	4	遊離石灰	0.20 x 0.06	1	0.012	
上部工小計						0.048	
P4橋脚	Y06	4	遊離石灰	0.28 x 0.05	1	0.014	
下部工小計						0.014	
合計						0.062	

遊離石灰の寸法は写真等から推定した値である

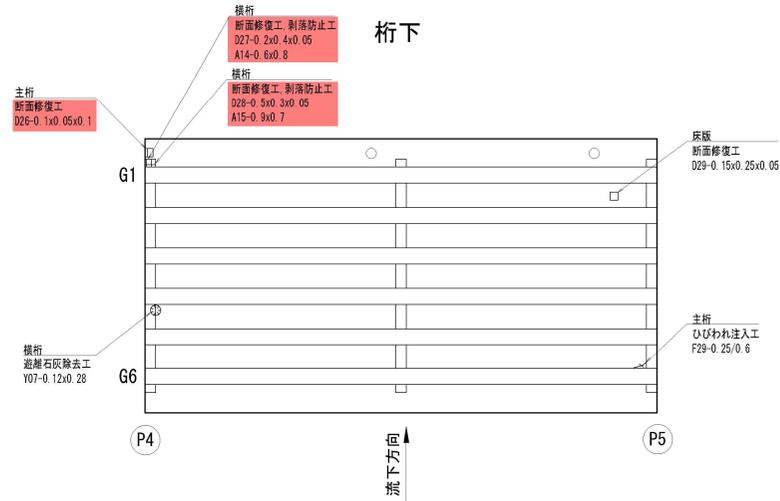
### 実施

年度	
補修番号	
工事名	(一) 桜江橋インター線(山中大橋) 防災対策工(橋脚補修)工事(その4)
通川港名	(一) 桜江橋インター線
施工箇所	江津市桜江町長谷 地内
図面名称	山中大橋 補修図(その4)
縮尺	図示
測量	会社及び責任者
設計	
業の内	

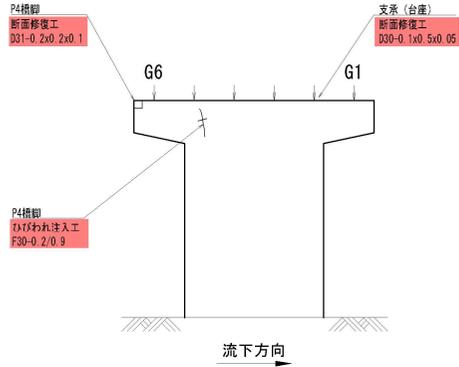
- 注記:
- 各補修図は過去の設計、施工、点検等の既往資料に基づき作成したものである。
  - 施工に際しては、現地計測を実施し、寸法や添架物等の支障物を確認後、着手すること。
  - 現地状況に差異が生じた場合は、監督職員と協議の上、設計変更すること。
  - 各損傷は点検調査を基に計上しているが、資料が不足する箇所は推定しているため、施工数量は計測結果を基に、監督職員と協議の上、決定すること。

# 山中大橋 補修図(その5)

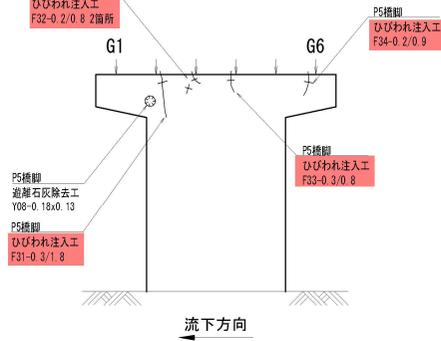
## コンクリート部材補修工(5径間)



P4橋脚(P5側)正面



P5橋脚(P4側)正面



対策工数量表: 断面修復工(左官工法)  
ポリマーセメントモルタル

構修箇所	補修番号	径間	構修項目	形状寸法(m)	箇所数	数量(m <sup>3</sup> )	備考
床版	D29	5	欠損	0.15 x 0.25 x 0.05	1	0.002	
主桁	D26	5	鉄筋露出	0.10 x 0.05 x 0.10	1	0.001	
横桁	D27	5	PC定着部の異常(浮き)	0.20 x 0.40 x 0.05	1	0.004	
横桁	D28	5	PC定着部の異常(浮き)	0.50 x 0.30 x 0.05	1	0.008	
上部工小計						0.014	
台座	D30	5	鉄筋露出	0.10 x 0.50 x 0.05	1	0.003	
P4橋脚	D31	5	剝離	0.20 x 0.20 x 0.10	1	0.004	
下部工小計						0.007	
合計						0.020	

断面修復の深さは各部材の配筋図から推定した値である

対策工数量表: 剥落防止工(PC定着部)  
ニュークリアクロス工法

構修箇所	補修番号	径間	構修項目	形状寸法(m)	箇所数	数量(m <sup>2</sup> )	備考
横桁	A14	5	PC定着部の異常[浮き]	0.60 x 0.80	1	0.480	
横桁	A15	5	PC定着部の異常[浮き]	0.90 x 0.70	1	0.630	
上部工小計						1.110	
合計						1.110	

対策工数量表: ひびわれ注入工  
エポキシ樹脂注入材

構修箇所	補修番号	径間	構修項目	ひびわれ幅(mm)	数量(m)	備考
主桁	F29	5	ひびわれ	0.25	0.80	
上部工小計						0.80
P4橋脚	F30	5	ひびわれ	0.20	0.80	
P5橋脚	F31	5	ひびわれ	0.30	1.80	
P5橋脚	F32	5	ひびわれ	0.20	0.80	
P5橋脚	F33	5	ひびわれ	0.30	0.80	
P5橋脚	F34	5	ひびわれ	0.20	0.80	
下部工小計						5.20
合計						5.80

対策工数量表: 遊離石灰除去工

構修箇所	補修番号	径間	構修項目	形状寸法(m)	箇所数	数量(m <sup>2</sup> )	備考
横桁	Y07	5	遊離石灰	0.12 x 0.28	1	0.034	
上部工小計						0.034	
P5橋脚	Y08	5	遊離石灰	0.18 x 0.13	1	0.023	
下部工小計						0.023	
合計						0.057	

遊離石灰の寸法は写真等から推定した値である

### 凡例

補修工法	
F0-0.00/0.00	ひびわれ注入 補修番号-幅(mm)/延長(m)
D0-0.00x0.00x0.00	断面修復(左官工法) 補修番号-幅(m)x高さ(m)x長さ(m)
S0-0.00x0.00	剥落防止(第三者被害予防) 補修番号-幅(m)x高さ(m)
A0-0.00x0.00	剥落防止(PC定着部) 補修番号-幅(m)x高さ(m)
Y0-0.00x0.00	遊離石灰除去工 補修番号-幅(m)x高さ(m)

### 注記:

- 各補修図は過去の設計、施工、点検等の既往資料に基づき作成したものである。
- 施工に際しては、現地計測を実施し、寸法や添架物等の支障物を確認後、着手すること。
- 現地状況に差異が生じた場合は、監督職員と協議の上、設計変更すること。
- 各損傷は点検調査を基に計上しているが、資料が不足する箇所は推定しているため、施工数量は計測結果を基に、監督職員と協議の上、決定すること。

### 実施

年度	
種別	
工事名	(一) 桜江橋インター線(山中大橋) 防災交付金「橋梁補修」工事(その5)
送川港名	(一) 桜江橋インター線
施工箇所	江津市桜江町長谷 地内
図面名称	山中大橋 補修図(その5)
縮尺	図示
測定	会社及び責任者
設計	
業の内	

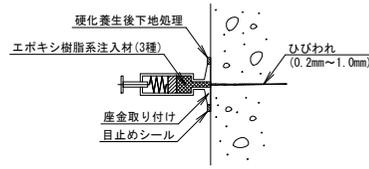
# 山中大橋 補修図 (その8)

## コンクリート部材 補修要領図

### ひびわれ注入工法

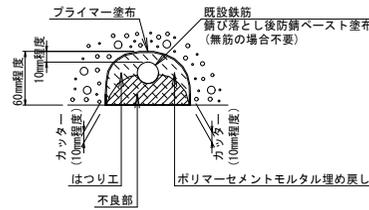
(ひびわれ幅0.2mm~1.0mm未満)

\* 0.2mm未満のひびわれは、補修しない。



### 断面修復工

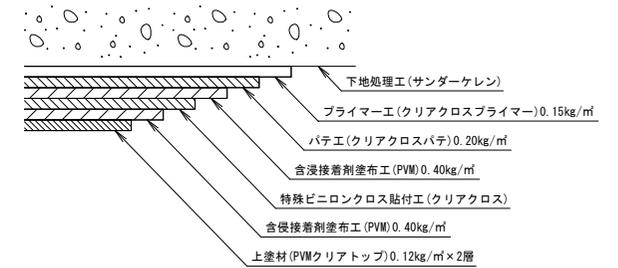
(対象：剥離・鉄筋露出・うき部)



- 断面修復工は、うき、剥離および鉄筋露出等が生じている箇所に対して行うこととし、施工箇所や範囲については、施工時において再調査のうえ決定すること。
- 鉄筋の裏側まで十分にはつり出し、鉄筋の錆び落とし、清掃及び防錆材の塗布を行ったのちに、断面を修復すること。

### 剥落防止工 詳細図

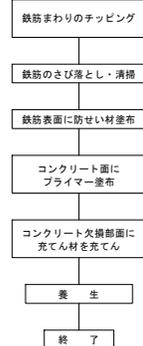
クリアクロス工法同等品以上



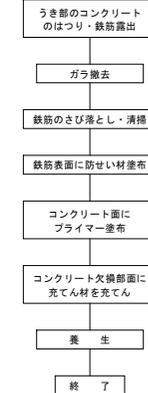
### フローチャート



### フローチャート (剥離・鉄筋露出部)

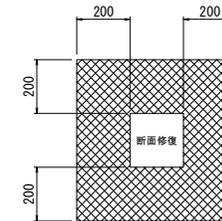


### フローチャート (うき部)



### 剥落防止施工範囲

※部分施工の場合



※ 剥落防止施工範囲は、断面修復外周部より200mmとする。

### 実施

年度	
番号	
工事名	(一) 桜江駅インター線(山中大橋) 防犯カメラ(構造耐震)工事(その2)
運川港名	(一) 桜江駅インター線
施工箇所	江津市桜江町長谷 地内
計画名称	山中大橋 補修図(その8)
縮尺	図示
設計	会社及び責任者
測量	
設計	
業の内	

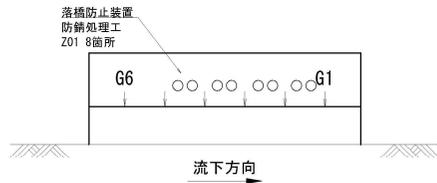
### 注記:

- 各補修図は過去の設計、施工、点検等の既往資料に基づき作成したものである。
- 施工に際しては、現地計測を実施し、寸法や添築物等の支障物を確認後、着手すること。
- 現地状況に差異が生じた場合は、監督職員と協議の上、設計変更すること。
- 各換層は点検調査を基に計上しているが、資料が不足する箇所は推定しているため、施工数量は計測結果を基に、監督職員と協議の上、決定すること。

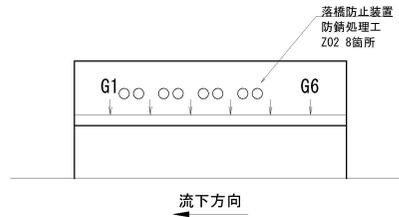
# 山中大橋 補修図 (その9)

## 落橋防止装置 防錆処理工 (A1橋台, A2橋台)

A1橋台正面

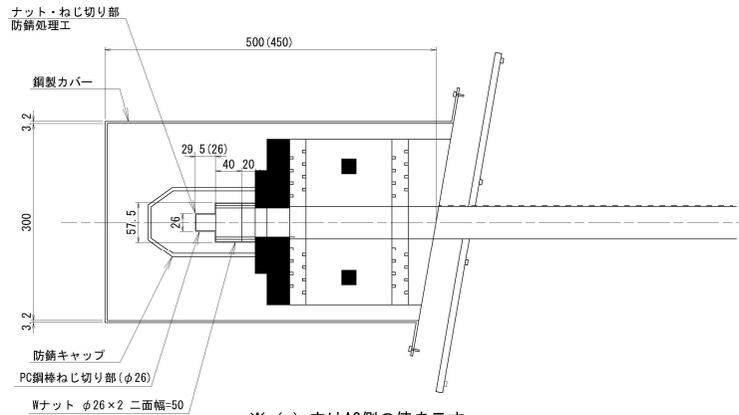


A2橋台正面



護岸ブロック

落橋防止装置 詳細図 S=1:4



※ ( ) 内はA2側の値を示す。

フローチャート  
(PC鋼棒ナット・ねじ切り部)



対策工数量表・防錆処理工  
常温亜鉛めっき

準備箇所	補修番号	径間	準備項目	計算式(表面積)	箇所数	数量(?)	備考
落橋防止装置	Z01	1	PC鋼棒ねじ切り部の腐食	$3.14 \times 0.015 \times 3.14 \times 0.026 \times 0.0295$	8	0.024	
落橋防止装置	Z01	1	Wナットの腐食	$3.14 \times (0.0575 \times 0.015) + 3.14 \times 0.0575 \times 0.06$	8	0.104	
落橋防止装置	Z02	7	PC鋼棒ねじ切り部の腐食	$3.14 \times 0.015 \times 3.14 \times 0.026 \times 0.026$	8	0.022	
落橋防止装置	Z02	7	Wナットの腐食	$3.14 \times (0.0575 \times 0.015) + 3.14 \times 0.0575 \times 0.06$	8	0.104	
合計						0.254	

※ ねじ切り部及びナットの表面積は円柱近似した場合の概算面積としている。

年度	
工事番号	(一) 桜江橋インター線 (山中大橋)
工事名	防災交付金「橋梁補修」工事 (その9)
送川港名	(一) 桜江橋インター線
施工箇所	江津市桜江町長谷 地内
取組名称	山中大橋 補修図(その9)
縮尺	図示
測定	会社及び責任者
設計	
	業の内

- 注記:
- 各補修図は過去の設計、施工、点検等の既往資料に基づき作成したものである。
  - 施工に際しては、現地計測を実施し、寸法や添架物等の支障物を確認後、着手すること。
  - 現地状況に差異が生じた場合は、監督職員と協議の上、設計変更すること。
  - 各損傷は点検調査を基に計上しているが、資料が不足する箇所は推定しているため、施工数量は計測結果を基に、監督職員と協議の上、決定すること。

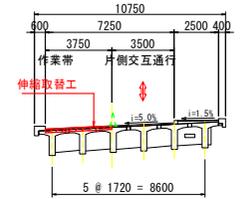
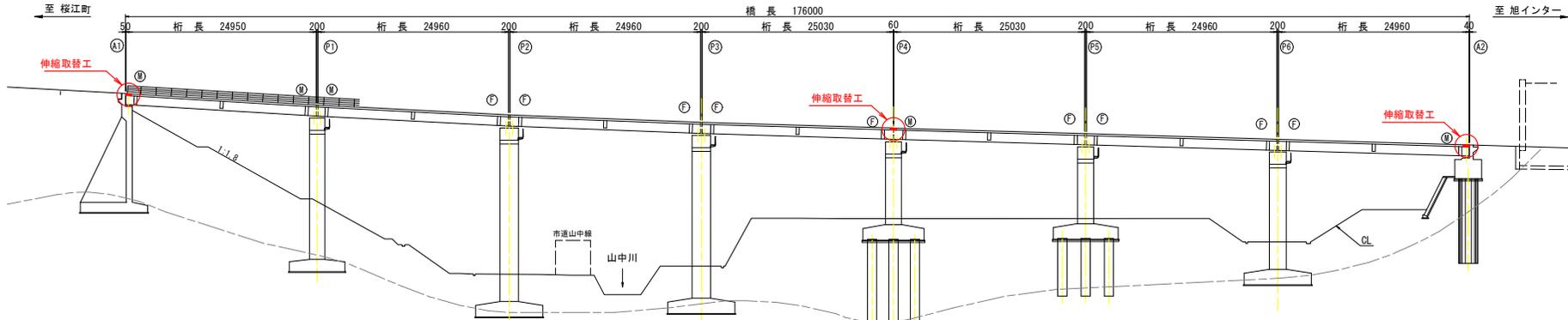
# 山中大橋 施工ステップ図(その1)

## STEP-1

PC定着部の異常、落橋防止装置・支承の腐食等の損傷原因である伸縮装置からの漏水を止めることが、優先順位が高いと判断し、伸縮装置取替工を片側交互通行により行う。

側面図 S=1:300

正面図 S=1:150

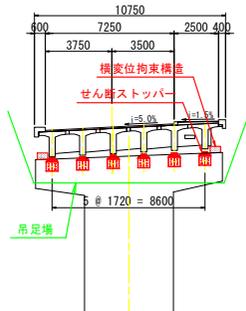
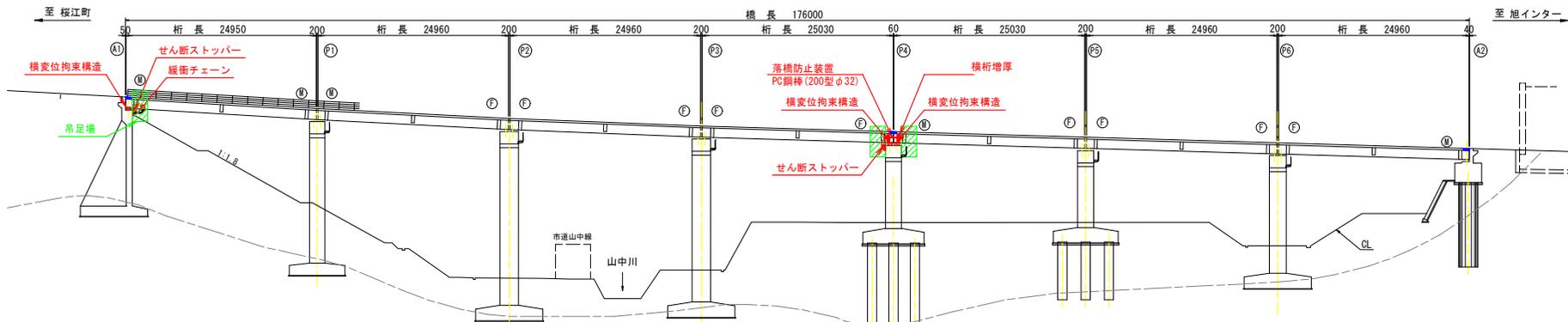


## STEP-2

耐震設計上の優先順位が高いA1橋台、P4橋脚部の落橋防止システム(落橋防止装置、横変位拘束構造)を行う。また、A1橋台、P4橋脚部の同一の吊足場内にある損傷に対する補修を行い、A1橋台、P4橋脚(起点側)の支承補充構造の設置も併せて行う。

側面図 S=1:300

正面図 S=1:150

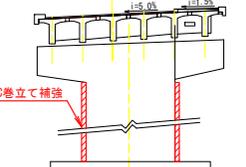
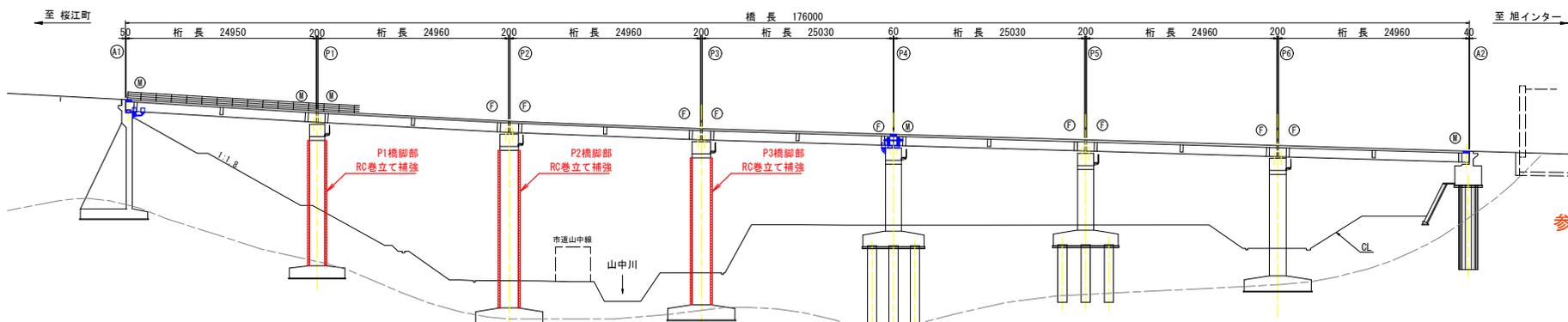


## STEP-3

P1、P2、P3橋脚について、市道山中線より資機材を搬入し、RC巻立て工法により橋脚耐震補強を行う。

側面図 S=1:300

正面図 S=1:150



参考図

年度	
番号	
工事名	(一) 桜江旭インター線
運川港名	江津市桜江町長谷 地内
施工箇所	山中大橋
図面名称	施工ステップ図(その1)
縮尺	図示
測	会社及び責任者
設	
	業の内

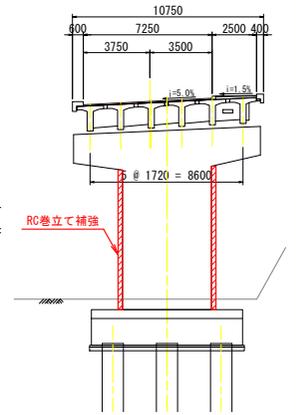
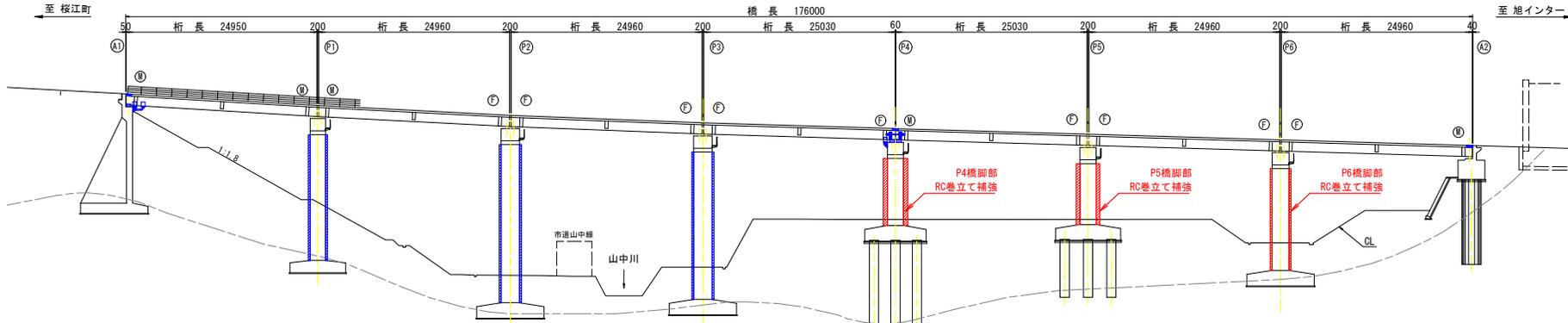
# 山中大橋 施工ステップ図(その2)

## STEP-4

P4、P5、P6橋脚について、市道山中線から旧戸野の道路を利用した工事用道路により資機材を搬入し、RC巻立て工法により橋脚耐震補強を行う。

側面図 S=1:300

正面図 S=1:150

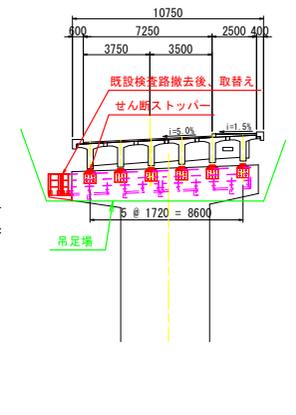
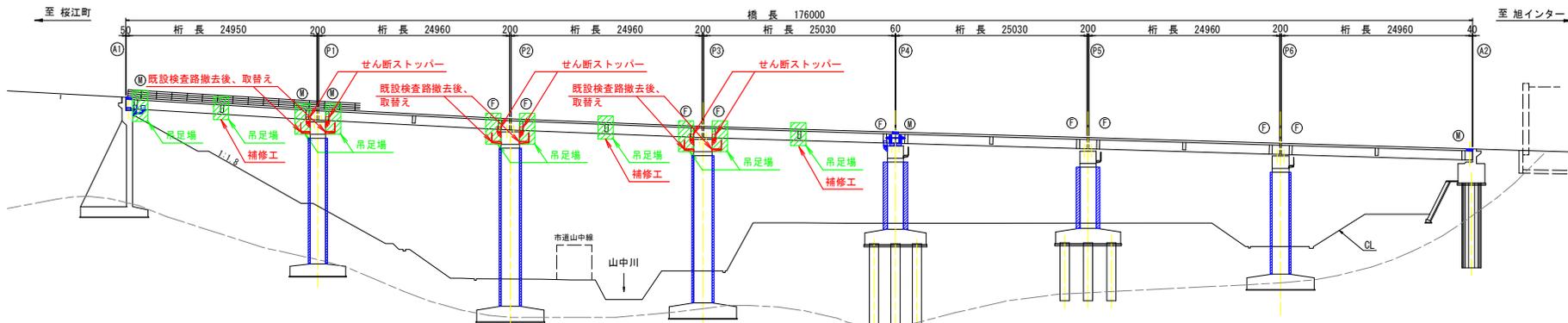


## STEP-5

P1、P2、P3橋脚の支承補完構造、A1-P4径間の判定区分Ⅱ・第三者被害予防措置及び支承補完構造と同一の吊足場内にある損傷に対する補修を行う。  
なお、支承補完構造の設置にあたっては、既設検査路を撤去し、施工後に支承補完構造の設置幅を考慮した下部工検査路に取り替える。

側面図 S=1:300

正面図 S=1:150

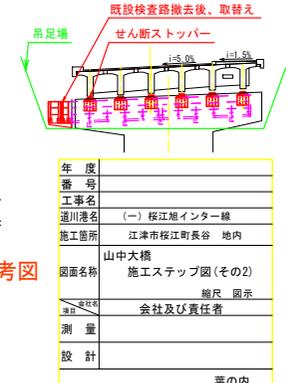
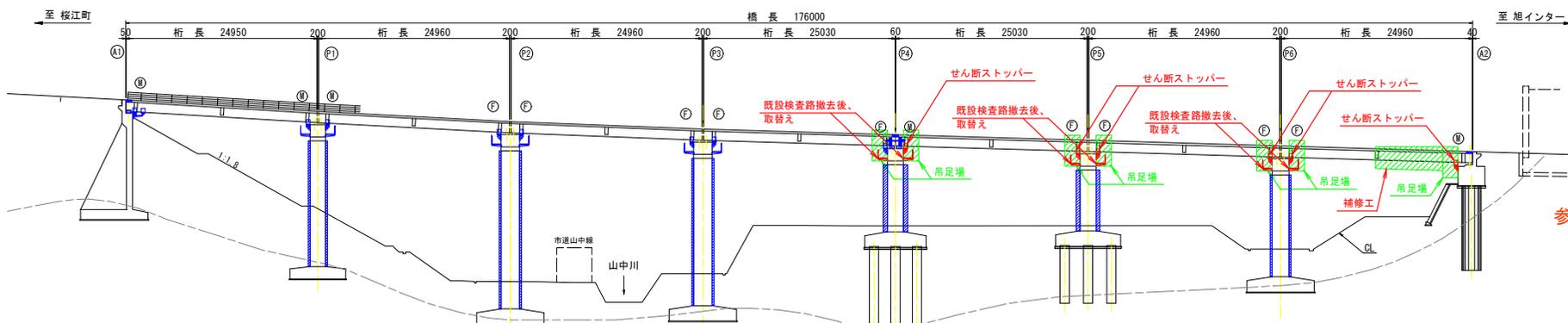


## STEP-6

P4(終点側)、P5、P6橋脚、A2橋台の支承補完構造、P4-A2径間の判定区分Ⅱ及び支承補完構造と同一の吊足場内にある損傷に対する補修を行う。  
なお、支承補完構造の設置にあたっては、既設検査路を撤去し、施工後に支承補完構造の設置幅を考慮した下部工検査路に取り替える。

側面図 S=1:300

正面図 S=1:150



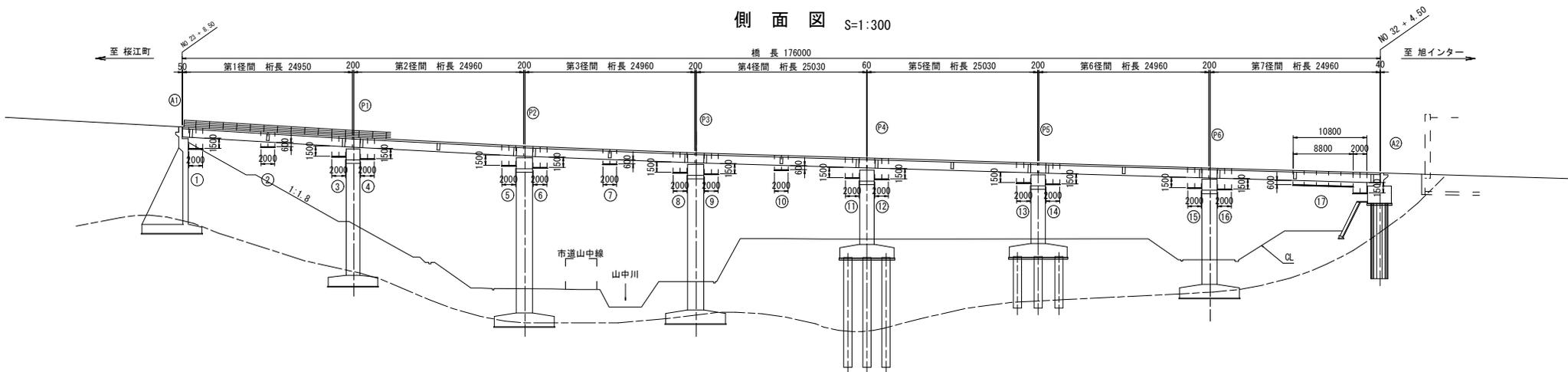
参考図

年度	
番号	
工事名	(一) 桜江旭インター線
運川港名	江津市桜江町長谷 地内
施工箇所	山中大橋
図面名称	施工ステップ図(その2)
縮尺	図示
測 量	会社及び責任者
設 計	業の内

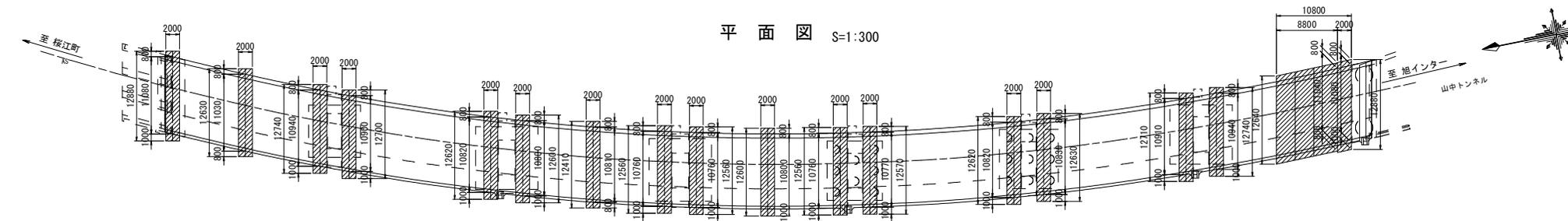
# 山中大橋 施工計画図(その7)

<仮設足場工(吊り足場)>

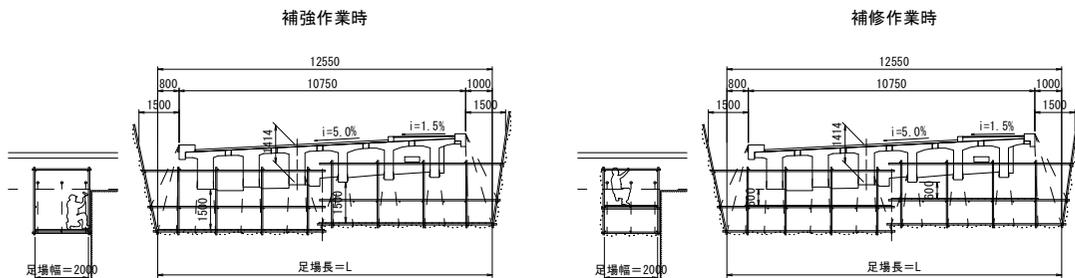
側面図 S=1:300



平面図 S=1:300



足場工標準断面図 S=1:100



仮設足場工数量 (吊り足場)

足場段数=2段 (補強, 補修)

区分	計算式	面積 (m <sup>2</sup> )
1径間	(12.88 + 12.74) x 2.0	51.24
2径間	(12.70 + 12.62) x 2.0	50.64
3径間	(12.60 + 12.56) x 2.0	50.32
4径間	(12.56 + 12.56) x 2.0	50.24
5径間	(12.57 + 12.62) x 2.0	50.38
6径間	(12.63 + 12.71) x 2.0	50.68
7径間	(12.74 + 12.88) x 2.0	51.24
合計		354.74

足場段数=1段 (補修)

区分	計算式	面積 (m <sup>2</sup> )
1径間	12.63 x 2.0	25.26
3径間	12.41 x 2.0	24.82
4径間	12.60 x 2.0	25.20
7径間	12.64 x 8.8	111.23
合計		186.51

合計 = 541.25 m<sup>2</sup>

参考図

年度	
番号	
工事名	(一) 桜江インター線(山中大橋) 防災交付金「橋梁耐震」工事(その2)
通川港名	(一) 桜江旭インター線
施工箇所	江津市桜江町長谷 地内
図面名称	山中大橋
図面内容	施工計画図(その7)
縮尺	図示
設計	会社及び責任者
測 量	
設 計	
	業の内